

The Journal of Japanese Association of Occupational Therapists (JJAOT)

日本作業療法士協会誌

2017

8

- 平成29・30年度 役員紹介
- 【重要】「施設情報」登録のお願い！

【連載】

総合事業5分間講読

学会だより④ 第51回日本作業療法学会 参加者の皆様へ

声～女性の協会活動参画促進のために

協会設立50周年関連事業～各士会の取り組み

【協会活動資料】

第52回作業療法士国家試験について－国家試験問題指針検討班による検討結果

平成28年度介護保険モニター調査報告②－訪問による作業療法

JAPAN
50th
日本作業療法士協会
設立50周年

これからも あなたと共に 作業療法



一般社団法人

日本作業療法士協会

重 要

一般社団法人日本作業療法士協会 2017 年度入会の皆さまへ（お願い）

この度は当協会に入会いただき心より感謝申し上げます。

入会手続きが完了し協会員となった皆様に、次の段階の登録をお願いいたします。この点につきましては、すでに入会手続き完了時にメールもしくは書面にてご案内しております。

入会手続きの際に基本情報（協会からのご案内や連絡を行うための住所やメールアドレス等の情報）を登録いただきましたが、次の段階として付帯情報の登録をお願いいたします。

付帯情報は、作業療法士の勤務実態を会員統計データとして集計し、国や他団体へ要望する際の根拠資料や、協会の活動方針を決める指針になるデータ作成に必須の情報となります。会員統計データは毎年、機関誌『日本作業療法士協会誌』に掲載しており、2016 年度版を 9 月号に掲載しますので、是非ご覧ください。

登録にあたっては、下記の手順をご確認ください。

【登録方法について】 ※登録内容に問題があると、エラー内容が表示されます。

- ①日本作業療法士協会ホームページ→会員向け情報→会員ポータルサイト
- ②会員ポータルサイトにログインし、「基本情報変更」をクリック
※パスワードが不明の場合、もしくは入力してもログインできない場合は、「パスワードを忘れた方はこちら」から仮パスワードを申請してください。
- ③基本情報変更→会員情報の閲覧・更新
- ④「個人情報」をクリックし、登録済みの情報の確認と、「必須」と書かれた項目で未入力の部分を入力し、一番下の「送信」をクリック
※現在 OT として勤務されておらず勤務施設の登録がない方は、⑥に進む
- ⑤「勤務先」をクリックし、登録済みの情報の確認と、「必須」と書かれた項目で未入力の部分を入力し、一番下の「送信」をクリック
- ⑥会員情報の確認および登録は完了。
※ OT として勤務している方は、「勤務先」ページも登録が必ず必要です。
※登録方法にご不明な点がございましたら、お問い合わせください。

会員情報の登録および確認は、入会完了より 1ヶ月以内に登録するようにしてください。
情報が登録されないと、登録情報不備により統計情報委員会実施の調査対象となります。

一般社団法人日本作業療法士協会
事務局長 荻原 喜茂
会員管理 霜田・賛田
E-mail : kaiinkanri@jaot.or.jp

JAO T

日本作業療法士協会誌

CONTENTS

The Journal of Japanese Association of Occupational Therapists (JJAOT)

目次 ● 平成 29 年 8 月 15 日発行 第 65 号

ピックアップ

- 【重要】「施設情報」登録のお願い！
- 事務局からのお知らせ
- 平成 29・30 年度 役員紹介

会議録 平成 29 年度第 4 回定例理事会抄録

協会各部署活動報告 (2017 年 6 月期)

協会活動資料

- 第 52 回作業療法士国家試験について
—国家試験問題指針検討班による検討結果—
- 平成 28 年度介護保険モニター調査報告②
—訪問による作業療法—

医療・保健・福祉情報

- 「児童福祉領域における作業療法」意見交換会 開催のご案内
- 特別支援教育での実践に関する情報交換会
(近畿地域・関東甲信越地域) のご案内
- 『保育所等訪問支援の効果的な実施を図るための手引書』ができました

事例報告登録システムから

- 精神科領域における訪問での作業療法

国際部 Information

- 国際部主催「国際学会発表準備セミナー」のご紹介

総合事業5分間講読 作業療法士ができる地域づくり

学会だより④ 第 51 回日本作業療法学会 参加者の皆様へ

声～女性の協会活動参画促進のために

- テーマ：学会に参加しました

協会設立 50 周年関連事業～各士会の取り組み



平成29年度

第4回定例理事会抄録

日 時：平成 29 年 7 月 15 日（土）13：01～15：42

場 所：一般社団法人日本作業療法士協会事務所 10 階会議室

出 席：中村（会長）、荻原、山本（副会長）、大庭、荻山、座小田、陣内、藤井、三澤（常務理事）、池田、小川、川本、酒井、佐藤孝、清水、高島、谷、二神（理事）、太田、長尾、古川（監事）

陪 席：伊藤、小賀野（委員長）、宮井（事務長）、岡本（財務担当）

I. 報告事項

1. 九州北部豪雨災害への対応と JRAT の動きについて（中村会長）7 月 12 日に当協会内に JRAT 九州北部豪雨災害対策本部を立ち上げた。
2. 議事録の確認
 - 1) 平成 29 年度第 3 回定例理事会議事録（山本副会長）書面報告。
 - 2) 平成 29 年度第 2 回定例常務理事会議事録（山本副会長）書面報告。
3. 5 月期の収支状況について（岡本財務担当）例年どおりの執行率で推移している。
古川監事：新規で何か行いたいときは、まず自分の部で優先順位の低いものを削って、その予算を回すことから考えていただきたい。
4. 他組織・他団体の協会代表委員名簿（修正・追補版）について（荻原事務局長）書面報告。
5. 第 51 回学会時の会長招宴の出席者の変更について（藤井常務理事・国際部長）書面報告。
6. 今総会の役員選任決議で次点となった候補者の無効票について（伊藤選挙管理委員）電子端末に不具合はなく、ボタンの押し間違いがあったとは考えられない。
7. 損保ジャパン社及び代理店における個人データの安全管理措置について（宮井事務長）損保ジャパン本体と代理店に対し、個人情報の管理を担保する根拠文書の提出を求めた。
8. 運転支援における作業療法士総合補償保険制度の適応について（宮井事務長）賠償責任保険を適用できるという回答を得た。
9. WFOT の作業療法士教育最低基準の改訂(MSEOT2016)について（荻山常務理事・教育副部長、藤井常務理事・国際部長、陣内常務理事・教育部長）世界作業療法士連盟で昨年改訂された教育の最低基準の翻訳を進めている。
10. チーム医療推進協議会に提出した OT 協会要望書について（三澤常務理事・制度対策部長、山本副会長）当協会が提出した要望書のうち、緩和ケア病棟、がん患者外来リハの新設の 2 件が採用された。
11. 自立支援型訪問看護ステーション、通所介護事業所について（中村会長）
12. MTDLP 委員会終了に伴う機能の継承・移行について（大庭常務理事・MTDLP 担当理事）書面確認。
13. 常務理事会報告
 - 1) 3 プロジェクトの進捗状況について（各担当理事）
 - ①協会組織体制
 - ②新規事業
 - ③連盟との関係
 - 2) 次期中期計画策定に向けての提案状況について（荻原事務局長、小賀野企画調整委員長）書面報告。

14. 会長及び業務執行理事の平成 29 年 6 月期活動報告 書面報告。

15. 協会各部署の平成 29 年 6 月期活動報告 書面報告。

16. 渉外活動報告 書面報告。

17. 日本作業療法士連盟の動き 書面報告。

18. 訪問リハビリテーション振興財団の動き 書面報告。

19. その他

藤井常務理事・国際部長：10 月 26 日（木）、大韓作業療法士協会が当協会を表敬訪問する。

三澤常務理事・制度対策部長：9 月に障害保健福祉領域 OT カンファレンスが実施される。会員は無料だが、他職種で参加希望の方には資料代 500 円を徴収したい。

藤井常務理事：第 51 回作業療法学会開会前日の 9 月 21 日（木）に、国際フォーラムで、東アジア諸国との交流会が開かれるので、参加して東アジアの作業療法教育についての見聞を広めてほしい。また、22 日（金）は、ドミニカ共和国の作業療法士会長も参加するインターナショナルパーティーが開催される。

中村会長：指定規則改正の検討委員会（第 1 回）が 6 月 26 日に開催され、教育部で作成した案を協会意見として提出した。

II. 審議事項

1. 日本発達障害ネットワークの年会費の増額対応について（三澤常務理事・制度対策部長）→ 承認
長尾監事：増額分の 10 万円はどこから出るのか。岡本財務担当：法人会計の負担金の予備費で対応する。
2. 第 55 回日本リハビリテーション医学会合同企画への参画について（大庭常務理事・教育副部長）参画に当たり、費用が発生する場合の負担についての意見、当協会が企画を提示することの意義についての意見等が出され、学術部が中心となって話し合いを進めることが賛成多数で承認された。
3. 台湾からの第 51 回日本作業療法学会参加者の施設見学希望への対応について（藤井常務理事・国際部長）費用は国際部の経費の中から支出する。→ 承認
4. 会員の入退会について（荻原事務局長）
35 名の再度入会 → 承認
5. 日本リハビリテーション医学会正会員推薦の依頼について（中村会長）→ 承認
6. その他
荻原事務局長：川本理事から、広報部副部長との兼任で 47 都道府県委員会担当理事を継続したい旨の希望が出され三役了解、47 都道府県委員会委員長了解。
→ 承認

協会各部署 活動報告

(2017年6月期)

学術部

【学術委員会】学術委員会（班長・責任者）会議開催。作業療法ガイドラインおよび疾患別ガイドライン編集作業。事例報告登録制度（一般事例、MTDLP 事例）の運営と管理。事例報告 A 審査委員会議の予定検討。作業療法マニュアルの編集作業。平成 30 年度課題研究助成制度募集要項決定。

【学術誌編集委員会】学術誌編集会議開催（委員および査読者）。学術誌『作業療法』の査読管理及び編集作業。『Asian Journal of OT』の査読管理及び編集作業。

【学会運営委員会】第 51 回日本作業療法学会（東京）の学会事前登録開始。一般発表演題の座長確定。第 52 回日本作業療法学会（名古屋）のテーマ等の検討開始。

教育部

【養成教育委員会】指定規則改定の検討会開始にともない、会長を交えての会議開催、臨床実習の手引き第 5 版の検討会議の開催、国家試験問題指針検討班による第 52 回国家試験の分析会議の開催、WFOT 教育最低基準 2016 の完訳版及び最低基準作成の検討会を開催し 8 月理事会で上程予定、他。

【生涯教育委員会】生涯教育制度改定（案）についての検討、新コンピュータシステム：研修受付本番トライアルの実施、課題や改良点を検討し、今後研修運営委員への周知を進める。専門作業療法士新規分野 WG の開始、e-learning の会議で業者からのプレゼン、e-learning 可能研修会の検討、他。

【研修運営委員会】平成 29 年度認定作業療法士取得研修、専門作業療法士取得研修の実施、全国研修会運営委託業者との打ち合わせ会議の開催、協会主催研修会講師等の旅券手配に関して業者との打ち合わせ、他。

【教育関連審査委員会】WFOT 認定等教育水準審査担当：リハビリテーション評価機構との連携、7 月評価員研修会に向けた準備、書面調査に関する質問への対応、認定 OT 審査担当・臨床実習審査担当：第 2 回審査に向けた準備、資格試験担当：認定作業療法士取得選択研修 2 研修の修了問題の決定及び印刷、他。

【作業療法学会書編集委員会】第 2 巻及び第 3 巻の執筆者決め、他。

制度対策部

【保険対策委員会】①診療報酬・介護報酬情報のホームページ更新、②会員からの制度に関する問い合わせ対応、③医療保険精神科領域モニター調査結果集計、④全国リハビリ関連団体協議会・報酬対策委員会の資料作成、⑤リハ専門職団体協議会としての平成 30 年改定に向けた要望検討、⑥平成 28 年度モニター調査報告（7 月号より機関誌連載）。

【障害保健福祉対策委員会】①就労支援サービスに係る平成 30 年改定に向けた要望、②児童福祉領域（通所）における作業療法士の役割検討、③特別支援教育に関わる県士会窓口担当者設置に向けた準備、④ OT カンファレンス in 新潟企画・準備、⑤児童福祉領域意見交換会企画、⑥就労支援フォーラム企画検討。

【福祉用具対策委員会】①生活行為工夫情報モデル事業、②福祉用具相談支援システム運用事業：相談対応など、③ IT 機器レンタル事業：レンタル受付手配。

広報部

【広報委員会】①ホームページ：連載コンテンツ等に関わる企画立案および校正作業。Opera 移行分についての検討、取材者（鼎談者）に依頼、日程調整。②作業療法啓発ポスター：配布先取りまとめ、校正作業。③資料：組織率向上に向けて資料制作。④その他：チーム医療推進協議会「メディカルスタッフの仕事」素案作成、13 歳のハローワーク更新作業。

【機関誌編集委員会】6 月号発行、7 月号校了、8 月以降企画立案・編集準備、特集記事等準備。

国際部

今年度初回の部会を開催（18 日）。台湾 - 日本間の学術交流に向けた調整作業、第 51 回学会（東京）での国際シンポジウム開催に向けた調整作業、同学会における国際部ブース設置の調整作業、国際部関連研修会の準備、第 4 回東アジア交流会開催に向けた調整作業、各都道府県士会に向けた国際動向調査の集計作業、国際部広報担当による「国際部 Information」の企画作業、作業療法士に

よる国際協力の歩みに関する冊子発刊に向けた調整作業など。海外からの問い合わせ対応。

災害対策室

熊本地震被災会員の会費免除申請に係る受付対応。大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）、国際医療技術財団（JIMTEF）への活動協力。災害支援ボランティア登録の随時受付。

47 都道府県委員会

①平成 29 年度第 2 回 47 都道府県委員会の開催に向けた準備、② 47 都道府県委員会運営会議の開催（6/13）、③各ワーキンググループにて委員会に向けた検討、関連部署との調整、④平成 30 年度モデル事業テーマの検討と理事会への報告。

生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会

6 月 10・11 日全国推進会議（事例の書き方研修含む）開催。MTDLP 事例審査に関連する作業。基礎研修・事例報告者（発表者）の修了登録にかかる作業。協会ホームページにおける MTDLP ページの作成。MTDLP やシート許諾に関連する問い合わせへの対応。生活行為向上リハ研修会講師派遣（他団体受託）。

認知症の人の生活支援推進委員会

①アップデート研修開催に関するアンケート調査の実施（47 都道府県委員会において報告）、②認知症の評価に関する検討を開始（6/25）、③認知症推進委員へ向けて情報および資料配信、④ 47 都道府県委員会との連携。

地域包括ケアシステム推進委員会

①各士会で予定されている研修会への講師派遣対応、②「地域ケア会議および総合事業における人材育成研修会（仮）」（9 月開催）の準備、③「地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割」のパフレット作成、④第 2 回委員会の開催（6/23）、⑤ 47 都道府県委員会との連携。

運転と作業療法委員会

①「運転に関する作業療法士の基本的な考え方説明会、都道府県士会協力者会議」開催の準備、②各士会への情報配信、③ 47 都道府県委員会との連携。

事務局

【財務・会計】平成 29 年度会費の収納。4・5 月期の収支状況の確認。

【会員管理】WEB による新入会の受付及びシステム不具合への対応。施設・養成校マスタの運用と不具合への対応。その他、会員の入退会・異動・休会等に関する管理。

【庶務】平成 29 年度定時社員総会の議事録作成、新役員の登記手続き。三役会・理事会の資料作成・準備・開催補助、議事録の作成。新コンピュータシステム 1 次開発の不具合への対応、1.5 次開発に係る詳細検討、工程管理。事務局倉庫の賃借に伴う事務所の整理と資料等の移動作業。

【企画調整委員会】次期中期計画策定に向けての協会各部署からの提案取りまとめ。『作業療法白書 2015』の協会ホームページへの登載。

【規約委員会】役員改選時の会務運営体制決定の時期と方法に関する規約上の検討。

【統計情報委員会】施設・養成校マスタの不具合への対応。

【表彰委員会】平成 29 年度表彰式の報告記事を機関誌 7 月号に寄稿。

【総会議事運営委員会】平成 29 年度定時社員総会について理事会に報告。平成 29 年度定時社員総会の議事録作成。

【選挙管理委員会】平成 29 年度定時社員総会の役員選任決議における無効票のデータ確認と検討。

【倫理委員会】倫理問題事案の収集と対応（継続）。

【国内外関係団体との連絡調整】大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）、リハビリテーション専門職団体協議会、全国リハビリテーション医療関連団体協議会等々との連絡調整・会議参加・事務局運営など（継続）。

会員所属施設「作業療法部門」責任者の皆様

大至急、施設情報をご登録ください！

5月末に、すべての協会会員所属施設に宛てて「施設情報登録協力について（お願い）」という文書を郵送いたしました。一人職場の施設から、多数の会員を擁する大規模施設まで、各施設に通ずつお送りしています。各施設の「作業療法部門」責任者の皆様にはご確認いただけていますでしょうか？

この施設情報登録は非常に重要です。ここで登録された施設情報は、今年の秋に会員ポータルサイト上で公開予定の「会員所属施設名簿」に反映される重要な基礎データとなります。施設情報が不完全・不正確なままですと、その誤った施設情報が公開され、当該施設に不利益をもたらしかねません。また、この「会員所属施設名簿」は目下開発を進めている新しい会員管理システムとも連動しておりますため、個々の会員が自分の業務について正しい情報を登録することもできなくなってしまうます。

各施設の「作業療法部門」責任者の皆様には、大変お手数をお掛けしますが、必ずご自分の施設の登録内容を確認し、必要な修正・変更作業を行ってください。

また、「作業療法部門」の責任者でない会員も、これをお読みにになりましたら、ご自身の施設の「作業療法部門」責任者の方^(※)に、この登録を済ませたかどうかをぜひ確認してみてください。そして、もしまだ登録が済んでいないようでしたら、ぜひ強く登録を促してください。

(※「作業療法部門」の責任者が会員でない場合は、責任者に準ずる会員にご担当いただきます。)

第一次の登録期限を6月30日までとさせていただいておりましたが、7月以降も引き続き登録が可能となっております。登録がまだ済んでいない施設には、8月上旬に仮ID／PWを再発送させていただいておりますので、至急ご確認いただき、登録作業を行ってくださいますようお願い申し上げます。

なお、登録画面にログインするための仮ID／PWが分からなくなってしまった方、その他ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

問い合わせ先

一般社団法人日本作業療法士協会 事務局

E-mail : shisetsukanri@jaot.or.jp

事務局からのお知らせ

◎第 51 回日本作業療法学会 事前参加登録について

学会事前参加登録は **2017 年 8 月 31 日 (木) まで**となっております (本誌平成 29 年 6 月号に同封したチラシの期日から延長となりましたので、ご了承ください)。参加される方は、ぜひ期間内の事前登録をお願いいたします。

また、学会の事前参加登録は、2017 年度の会費の納入確認をもって可能となります。事前参加登録を希望している会員の方はすみやかに 2017 年度会費をご納入願います。学会事前参加登録については学会ホームページ (<http://web.apollon.nta.co.jp/ot51/index.html>) より、<参加登録>の項目をご参照ください。

◎ 2017 年度会費が未納の方へ

会費納入のお願い (ハガキ) をお送りしました

7 月末までに 2017 年度会費をご納入いただけなかった方に宛てて、協会事務局より会費納入のお願いのハガキを差し上げました。お手元にハガキが届いた方はお早目に会費をご納入ください。なお振込用紙を紛失された方、金額が不明の方は協会事務局までお問い合わせください。

◎ご自身の登録情報が最新かどうかをご確認ください！

協会に登録している勤務施設は現在の職場でしょうか。協会より会員所属施設宛に郵送物等をお送りしますと、既に退職済みとのことで返送されてくる場合があります。特に発送先を自宅宛とご指定いただいている場合、勤務施設に関する情報が更新されず、古い勤務施設の登録が残ったままになっている場合があります。協会にご登録いただいている施設にその会員が所属しているものと判断しますので、ご自身の登録している勤務施設が最新であるかどうかを確認し、もし古い情報のままでしたら修正・更新をお願い致します。

【登録情報の確認方法】

協会ホームページより、会員ポータルサイトにログインし「基本情報変更」で登録情報の確認・修正が可能です。

※パスワードをお持ちでない方、忘失された方はパスワードを再発行することができます (協会ホームページ>会員ポータルサイト>パスワードを忘れた方はこちら)。

◎休会に関するご案内

休会は年度単位 (4 月 1 日～3 月 31 日) でのみ申請・取得が可能となっています。これは会員の資格が年度単位で登録されていることに基いています。年度途中での申請や、数ヶ月単位の取得などはできません。

2018 年度 (2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日) の休会を希望される方は、それに先立つ 2018 年 1 月 31 日までに「休会届」のご提出が必要になります。この提出期限を過ぎますと、2018 年度の休会ができなくなりますのでご注意ください。

【申請手続】

前提条件……………①申請年度までの会費が完納されていること

②過去の休会期間が 5 年間に達していないこと

提出書類……………①休会届 (協会事務局に連絡し、所定の用紙を請求。これに必要事項を記入し、署名・捺印)

②休会理由の根拠となる、第三者による証明書

○出産・育児……………出産を証明する母子手帳の写しなど

○介護……………要介護状態を証明する書類の写しなど

○長期の病気療養……………医師の診断書の写しなど

提出方法……………郵便でのみ受け付けます

提出先……………〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル 7 階

提出期限……………2018 年 1 月 31 日

【証明書のご提出が申請の締め切りに間に合わない場合】

まず「休会届」だけ先に提出してください。その際、協会事務局にご一報いただき、いつまでに証明書の提出が可能かご相談ください。休会期間中の 1 月 31 日までに (申請時の 1 月 31 日ではありません。たとえば 2018 年度の休会に関してであれば 2019 年 1 月 31 日までに) 証明書をご提出ください。

【制度の詳細】

休会制度の詳細および「Q & A」については協会ホームページをご覧ください (協会ホームページ>会員向け情報>Members Info>各種届出>休会制度)。その他ご不明な点は協会事務局 (電話 03-5826-7871) までお問い合わせください。

平成 29・30 年度役員紹介



会長 中村 春基
【WFOT 代表】

まず、本年7月九州北部豪雨災害において被災された方々に心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。該当士会と協力し被災された方々の生活の再建に尽力して参ります。

さて、会長として5期目を迎え、ますます協会・士会の活動を活発にし、MTDLPを国民に届け、「人は作業を行うことで元気になれる」という社会にしたい。MTDLPの引き続きの取り組みをお願いしたい。

この期は、医療・介護・福祉の報酬改定、協会の作業療法の定義の改定、養成校指定規則の見直し、地域包括ケアの実践など、協会の質が問われる2年間である。新理事も加わり、引き続き、会員の声に耳を傾け現場や利用者を第一とした活動に努めて参りたい。



副会長 荻原 喜茂
【事務局長、広報部長、倫理委員長、表彰審査会副委員長】

今回改選に伴い、引き続き会長を補佐する副会長、定款に基づく公益事業部門を支える事務局長を軸とする管理運営部門の総括の役割を拝命した。管理運営部門では、特に次期中期計画の策定、各士会の協力を得ながら協会組織率向上に向けたさらなる対応、会員管理新システムの1.5次、2次開発の管理、適正な予算執行管理などの対応が主たる仕事となる。他方、広報事業では会員向け広報と同時に一般向け広報のさらなる展開、作業療法学全書については、作業療法に関するさまざまな書籍が世に出されている現在、作業療法士を目指す学生諸子にとって、わかりやすく体系だった協会法人著作ならではの改訂に取り組みたい。



副会長 香山 明美
【財務担当、災害対策室長、表彰審査会委員長、事務局長次長、倫理委員】

この度の改選に伴い、再任させて頂き副会長を拝命した。会長を補佐しながら財務担当として財務管理を中心に、加えて災害対策室長として災害対策に取り組んで参りたい。地域包括ケアシステムに資する作業療法士の役割を明示していくという協会が目指す方向性に沿って健全な財務管理を行うことが喫緊の課題であると考えている。現在検討中である中期計画が作業療法士10

万人時代を迎える礎になることを認識し、会員の皆様の思いの結晶としての協会活動であることを目指して業務を遂行していきたいと思っている。



副会長 山本 伸一
【事務局長次長、倫理委員】

今期より副会長を拝命し、身が引き締まる思いである。これまでの理事活動は、制度対策関連・渉外活動を主としてきた。近年における各省庁や関連団体との連携も拡大化。その成果は着実に上がってきていると感じる反面、2025年問題に向けた課題も山積している。乳児から高齢者まで、介護予防から急性期・回復期・生活期、そして終末期のすべての国民に作業療法を。在宅復帰に留まらず就学・就労・趣味拡大等、いきがいを持った「真の暮らし」のために作業療法がある。作業療法士だからわかること。作業療法士だからできること。対象者との出会いがある限り、それを大事にしたい。未来を創りましょう。対象者のために。将来の私たちのために。



常務理事 宇田 薫
【47都道府県委員長、倫理委員、表彰審査会委員、女性会員の参画促進事業担当、50周年関連事業担当】

この度、理事4期目（7年目）を引き続き47都道府県委員会委員長として務めさせて頂くこととなった。47都道府県委員会自体、4年目を迎えることになるが、この3年間、47人の委員をはじめ、協会役員、各部・委員会、事務局が悩みながらも常に進むことができた実感している。「士会＝協会で一体」「各士会事情に合わせた活動の展開」という当初からの目的から逸れずに、常にスピード感をもって展開し続けるという活動を定着させ、今後は士会＝協会のタテの繋がり・士会間の横の繋がり・協会内の横の繋がりなど、各繋がりにおいて両方向の矢印で力を発揮できるよう、今後も皆様からの意見や助言を頂きながら展開させていきたい。



常務理事 大庭 潤平
【教育部長、倫理委員、MTDLP委員会担当】

今期より常務理事を拝命し、生活行為向上マネジメント推進プロジェクト委員会と教育部を担当することになった。生活行為向上マネジメントは会員に普及を図り、国民ならびに他職種団体に作業療法をアピールしてきた。これからは普及から定着そして更なる発展に向けて協会内各部署と士会と連携し活動を行っていききたい。教育部では、生涯教育としての研修制度の改革など作業療法の基盤に関わる活動を行っていく。常務理事として重責任務を全うできるよう、会員の皆様と共に鋭意努力して活動していきたい。



常務理事 刈山 和生

【教育部長、倫理委員、50 周年関連事業担当】

再選されたことに心から感謝し、理事として 5 期 9 年目に至る。主な担当として教育部副部長に加え、50 周年関連事業、倫理委員会を担当させていただくこととなった。

従来通り、認知症のひとと家族の会とのつながりを継続しつつ、大学教員であることを忘れず、地域に資する人材をどう養成し、制度の中でどのような位置付けを目指すことが国民にとっての最良となるのかを慎重に吟味していきたい。そのためには、協会運営に携わる理事や事務局員はもとより、各部の委員や都道府県士会員の皆様の言葉と願い、そして何よりも当事者とご家族に対して鋭敏な感覚をもって臨みたい。



常務理事 陣内 大輔

【教育部長、倫理委員、表彰審査会委員】

理事 5 期目（常務理事 4 期目）、引き続き教育部長、表彰審査会委員、倫理委員会委員を拝命した。理事として第二次 5 ヶ年戦略の総括と次期中期計画の策定、遂行と関係官庁、団体との渉外活動が責務である。

また、教育部長として指定規則などの改定、臨床実習指針の策定、WFOT2016MSEOT 翻訳、生涯教育制度改定・運用、生涯教育受講登録システム（第三次）構築、協会主催研修会のあり方検討、MTDLP 課題の移行対応と推進など、多くの喫緊課題の解決とルーチン業務の安定的運用の責任を持つ。

卒前、卒後の一貫した教育体制のさらなる整備と教育活動の実践により、質の高い作業療法サービスの提供ができる人材育成を進め、協会の目的達成に全力で取り組みたい。



常務理事 三澤 一登

【制度対策部長、倫理委員、表彰審査会委員】

7 期連続で役員に選出され、会員に見える役員活動が評価された結果と認識している。常務理事 3 期目の責務と今期から制度対策部部長に任命され、責任は重大で身の引き締まる思いである。今、求められるのは、医療・介護は言うまでもなく、保健・福祉・教育・就労領域関連を繋げることにある。これからは、住み慣れた地域で安全に安心して生活できる環境を整備していく必要がある。そのため、一貫した継続性のある支援の提供が保障され、作業療法士もその一端を担う必要がある。「質の担保」と「効率化」は、マルチに対応できる専門職が求められる。今期は、作業療法の特性と作業療法士の専門性を主張し、次世代への新システムを提言する時である。



常務理事 座小田 孝安

【国際副部長、倫理委員、女性会員の参画促進事業担当】

2 期目の理事を選任していただきありがとうございました。担当は前期と同じく国際部副部長と常務理事として 2 年間協会活動をさせていただきます。国際的な活動は相手国があることもあり、都道府県士会ではなかなか取り組むことができない活動だと思います。国際部としては WFOT 委員会や国際委員会の活動を広く会員の皆様にお伝えして参加を促していきたいと思います。また、今期編成されている 3 つのプロジェクト班の組織改編プロジェクトを担当しています。会員数も約 10 年後には 10 万人に達すると予想されています。10 年後の協会組織を見据えて現状の課題を抽出し様々な提言を行い、短期及び中長期の活動計画に反映できればと思います。



常務理事 藤井 浩美

【国際部長、倫理委員】

私は、当協会の理事として 4 期 7 年目を迎えました。これまで、理事会、常務理事会の会務運営に加えて、教育部副部長、国際部副部長、国際部長を務めてきました。今期も常務理事兼国際部長として当協会の運営に関わることとなりました。今年は東アジア諸国との交流会の最終年度です。成果をまとめて、次のステージにつなげていきます。他方、昨年から日台学術交流が前進し、2017 Taiwan-Japan Occupational Therapy Joint Symposium を第 1 回アジア太平洋作業療法シンポジウム直前に開催することになりました。たくさんの方々にご参加願います。作業療法士の未来を明るくするには、一人ひとりが見通し力、統率力、経営力および交渉力を兼ね備えた真のリーダーを目指すことです。お互いに頑張りましょう！



常務理事 宮口 英樹

【学術部長、倫理委員、研究倫理審査委員長、運転と作業療法委員会担当】

理事 3 期目の今期より、学術部長として協会の活動に関わるとともに、引き続き運転と作業療法委員会を担当する。学術部では、小林正義前部長より引き継いだ定義改定、学術活動の推進、学会の発展を着実に履行しつつ、MTDLP を含めた作業療法の枠組みの構築について、教育部等と連携をしながら進めていきたい。特に疾患別ガイドラインの整備により、作業療法における学術的エビデンスをより会員が活用しやすいように示していきたい。運転と作業療法委員会では、移動支援を踏まえながら、協会と国内外団体、都道府県士会との協力、連携の可能性を踏まえて活動を推進したい。



理事 池田 望

【制度対策副部長、
表彰審査会委員】

この度の改選で新たに理事に就任し、制度対策部副部長および表彰審査会委員を拝命した。制度対策部では主に精神障害領域を担当する。平成30年度の診療報酬・介護報酬同時改定が迫っているが、前担当者の仕事を引き継ぎ、残り少ない時間の中で最善を尽くしたい。作業療法は地域、あるいは地域との連携の中でこそ活かされる。地域包括ケアその他の施策動向を踏まえ、作業療法士が地域住民のニーズに応えていける制度対策を、これまで尽力されてきた方々と共に戦略的に検討・提案していく。そのためにも関連各部署や関連団体との連携、情報収集を心がけるだけではなく、作業療法の発展に心を砕く会員の意見に広く耳を傾けながら取り組んでいきたい。



理事 川本 愛一郎

【広報副部長、表彰審査会委員、
47都道府県委員会副委員長】

この度、2期目の理事として「広報部副部長、表彰審査会委員、47都道府県委員会副委員長」を拝命した川本愛一郎です。前期の2年は、「広報部副部長、47都道府県委員会委員、50周年記念実行委員会副委員長」を務めさせていただいた。2年の活動を通して、協会の各部・委員会の運営が、三役をはじめ担当理事や各委員長、委員、事務局の「各チーム」の力の総和で成立

していることに感銘を受けた。

次の2年は、広報部副部長として協会の「各チーム」の「個力とチーム力の化学反応」を「現場主義」という「触媒」で、「臨場感とスピード感」を持って役割を果たしたい。また、協会に貢献された方を敬意をもって掘りおこし、皆で祝いたい。よろしくお願いいたします。

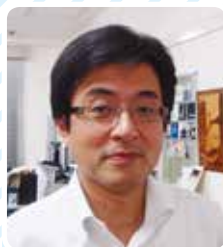


理事 佐藤 孝臣

【47都道府県委員会副委員長、
地域包括ケア推進委員会担当】

この度、理事2期目として地域包括ケアシステム推進委員会、47都道府県委員会担当理事を拝命した。地域包括ケアシステムは国の政策として深化、推進していく。その中で作業療法士がどのように関わり、専門性を発揮できるか、この数年に係っている。その要となる委員会の担当理事になり身の引き締まる思いである。地域包括ケアシ

ステムは「地域の実情」に合わせて構築していく。そのためにも各都道府県士会との連携は必須である。協会としての方向性を示し、各士会で地域の実情に合わせた作業療法士の育成や自治体との連携を図り、その中での課題を協会として支援できる体制が円滑に循環するよう尽力したい。



理事 小川 敬之

【47都道府県委員会副委員長、
認知症の人の生活支援推進委員
会担当】

今回3期目の協会理事として就任しました小川敬之です。主に認知症の人の生活支援推進委員会に多くの関わりを持ちました。2期目には47都道府県委員会と協力して、全都道府県に認知症作業療法推進委員会を設置することができ、国、協会、士会双方の情報共有ができる仕組みができたことと、分野に関係なく認知症作業療法の知識・技術の推進を図るべく「認知症アップデート研修」を全都道府県で開催できる仕組みとツールの配信を行いました。

超高齢社会の真っ只中、認知症に対する作業療法の役割はこれからますます高まることと思います。こうした追い風を感じながら、しかし流されることなく地に足をつけた作業療法の展開を会員の皆様と一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



理事 酒井 康年

【制度対策副部長、事務局次長】

この度初めて理事を拝命し、制度対策部副部長ならびに事務局次長の役を担うことになった。制度対策部の中でも、発達期の子どもたちを対象とした施策である特別支援教育と障害児福祉領域を担当することになった。どちらの領域においても、長らく作業療法士の活躍が期待されておりながら、配置促進が滞った状況が続いている。制度対策部においては、各種調査の実施、会員への情報提供、意見交換会の実施、研修実施などを行ってきた。今後は、これらの成果を元に、より具体的な展開を行うため尽力していきたいと考えている。そのためにもぜひ、各地域ごとに展開されている実践とその成果や課題について声を聞かせて頂きたい。



理事 清水 兼悦

【災害対策副室長、
表彰審査会委員】

このたびの総会にて再選していただき、2期目として理事を務めさせていただきます。

災害対策室担当として、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT)やレジリエンスジャパン推進協議会のワーキンググループのメンバーとして、また地域保健総合推進事業などにも関わり、この日本において避けようのない地域課題である超高齢社会と大規模災害を、平時から想定した地域包括ケアシステムにおける作業の構築に向けて邁進してゆく所存です。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



理事 高島 千敬

【学術副部長、表彰審査委員会】

理事 4 期目がスタートした。今期の役割はこれまでの制度対策部副部長から、学術部副部長へと変更になった。制度対策部時代は、内部障害関連、認知症ケア加算、昨年度末の排尿自立指導料での作業療法士の評価を得ることができ、一定の役割を果たすことができた。

学術部は 10 年前に部員として、当時の保険部と学術部を兼任し、内部障害関連の疾患別リハビリテーション料の保険収載に向けた活動を展開してきた思い出深い部署である。

当時からの課題ではあるが、保険収載に向けた要望活動には、根拠となる作業療法の実践が欠かせない。これからは違った立場から、協会活動を牽引していきたいと考えている。



理事 谷 隆博

【学術副部長】

理事として 5 期目を迎えることができた。代議員ならびに皆様にたいへん感謝申し上げる。さて、6 月 9 日に「骨太の方針 2017」が閣議決定された。これを受けて年末に診療報酬・介護報酬の同時改定の基本方針が決定されることになる。医療・介護の給付費の適正化・効率化・重点化もさらに強まることだろう。そして、消費税 10% へのアップが見送られた以上、マイナス改定となろう。しかしながら作業療法は高齢者のみならず障がい児や障がい者の生活課題の解決に向けては極めて有用で効果的である。30 年同時改定では高齢者と障がい者のサービスを一体的に提供できる共生型サービスが創設される。作業療法士の職域拡大に向け尽力して参りたい。



理事 二神 雅一

【制度対策副部長】

理事に再任していただき 2 期目を迎えることになった。引き続き制度対策部として介護保険分野、障害保健福祉分野（就労支援領域）を担当させていただく。2018 年は作業療法士にとっても大変重要な同時改定が控えている。社会保障を取り巻く情勢に鑑みても、相当厳しい環境変化を覚悟しなければならない。

特に官邸主導で動いている昨今は、従来通りの要望活動では大きな成果は期待できない。政治連盟との関係強化も含め、多方面への働き掛けが必要である。他方、地域包括ケアシステムのさらなる進化・深化が求められるなか、作業療法士の地域移行を順調に進める必要があり、事業モデルの提示や新分野の開拓、働き方などの提案を行っていきたい。



理事 村井 千賀

【制度対策副部長
女性会員の参画促進事業担当】

制度対策部担当理事に就任しました。当面は、平成 30 年診療報酬及び介護報酬の同時改定に向け、作業療法の技術の評価が得られるよう、会員皆様の意見を聞きつつ、制度対策部長とともに国及び関係団体に働きかけていきたいと考えます。

また、会員への制度の効果的・効率的な周知、疑問に答えるためのシステムも検討していければと考えています。会員の皆様と意見交換をしつつ、作業療法の技術を国民の皆様に提供できる環境の在り方について考えていきたいと考えます。



監事 太田 睦美

監事の役割は、「理事の職務の執行を監査することにある」とのことである。そのために、大きな権限と責任が付与されているとのこと。何とも責任の重い仕事である。

何をすべきか、何ができるのか分からないが、まず 1 年目は「現状の把握」に重点を置きたい。そのために、以下のことについて把握しようと思う。

1 つ目は財産管理の状態。財産とは人材（社員と従業員）と財務（財産とお金の出納）と情報（収集と活用）のことである。2 つ目は人材育成。3 つ目は公益事業（国民の健康の維持・向上のために、何をし、どう寄与しているのか）の実施状況である。



監事 長尾 哲男

作業療法士協会の果たすべき役割について、その業務企画や運営とは視点の異なる監事として、広く業務全体を概観しつつ理事会を支援していきます。

社会の変化を見据えつつ、自然災害が頻発している昨今、生活者支援の視点を持つ作業療法士協会が社会の一員として、為すべき社会貢献・提言には多様なものがあると思われます。それらを果たせる組織であるために個々の会員が尊重され、生き生きと活動し、会員相互の協働が更に推進される運営となるように支援していきます。



監事 古川 宏

監事の役割は、会計監査時の会計書類の確認、事業内容と協会資産の変遷、将来計画にもとづいた財務基盤および業務執行理事の活動チェック、理事会で理事の業務報告、審議内容を受けて協会の従来の方針、規則との整合性をチェックすること及び社員総会での意見の実現に向けて監査することである。

協会活動は活発で、理事の活動も概ね良好である。しかし立候補公告に述べたように赤字予算・決算で協会財務基盤の弱화가進んでいる。この対策の作成と、喫緊の課題として作業療法士受験生増加と質の向上と人材育成、そして作業療法活動を通じて社会貢献して揺るぎない作業療法の社会評価の確立を目指す戦略作成実現に監事として関与していきたい。

催物・企画案内

義肢装具 SIG 第 13 回講演会

日 時: 2017. 8/25 (金)・26 (土)
会 場: 株式会社澤村義肢製作所 (新社屋) (神戸市)
お問合せ: 義肢装具 SIG 第 13 回講習会事務局
 受付窓口: 砂野 (いさの)
 Eメール po-sig@resja.or.jp
 FAX. 0736-77-6111
お申込み: 詳細は、下記 URL をご覧ください。
<http://www.resja.or.jp/po-sig/>
参 加 費: 義肢装具ユーザー 無料 (義肢装具を生業とする方は除きます)
 学生 3,000 円
 リハ工会員 7,000 円
 義肢装具 SIG 会員 8,000 円
 協賛団体会員 9,000 円
 一般 10,000 円
主 催: 日本リハビリテーション工学協会

リカバリー全国フォーラム 2017

日 時: 2017. 8/25 (金)・26 (土)
会 場: 帝京平成大学 池袋キャンパス・本館
お問合せ: 認定 NPO 法人コンボ内 リカバリー全国フォーラム事務局
 TEL. 047-320-3870 FAX. 047-320-3871
お申込み: 詳細は、下記 URL をご覧ください。
<https://www.comhbo.net/>
参 加 費: ○カッコ内はコンボ賛助会員割引料金
 一 般: 事前登録 10,000 円 (8,000 円)
 当日参加 11,000 円 (9,000 円)

学 生: 事前登録 6,000 円 (4,000 円)
 当日参加 7,000 円 (5,000 円)
 家 族: 事前登録 5,000 円 (3,000 円)
 当日参加 6,000 円 (3,000 円)
 1 日参加 4,000 円
 当事者: 事前登録 4,000 円 (2,000 円)
 当日参加 5,000 円 (2,000 円)
 1 日参加 3,000 円

主 催: NPO 法人地域精神保健福祉機構・公益財団法人 精神・神経科学振興財団

第 46 回日本リハビリテーション工学協会 車いす SIG 講習会 in 神戸

日 時: 2017. 8/26 (土)・27 (日)
会 場: 一般社団法人日本福祉用具評価センター
お問合せ: 車いす SIG 講習会事務局 (担当: 深野栄子)
 TEL. 045-352-8165 FAX. 045-352-8166
参 加 費: 12,000 円～ 20,000 円 (テキスト代含む。加盟団体等により異なる)
主 催: 日本リハビリテーション工学協会 車いす SIG

中日健康フェア 2017

日 時: 2017. 9/2 (土)・3 (日)
会 場: 名古屋医専総合校舎スパイラルタワーズ
お申込み: 詳細は、下記 URL をご覧ください。
<http://iryuu.chunichi.co.jp/kikaku/kenkonet/>
参 加 費: 無料
主 催: 中日新聞社

第 52 回作業療法士国家試験について

国家試験問題指針検討班による検討結果

教育部 養成教育委員会 国家試験問題指針検討班

教育部養成教育委員会国家試験問題指針検討班（以下、検討班）では、平成 29 年 6 月 11 日に第 2 回検討班会議を開催した。第 1 回班会議で取りまとめられた国家試験の「問題について」の意見書は、本誌第 62 号（2017 年 5 月発行）に掲載した。

1. 国家試験合格者の動向・推移・入学定員との割合

平成 29 年 2 月 26 日に実施された第 52 回作業療法士国家試験は、3 月 29 日に合格発表があり、全体の合格率が 83.7%（5,007 人）で、前回の合格率 87.5%（5,344 人）より 3.8% 下回った（図 1）。また、新卒者のみの合格率は 90.5%（第 51 回 94.1%）、既卒者の合格率 30%（第 51 回 57.7%）で、既卒者の合格率は前回より 27.7% 下回った。

全体の受験者は、5,983 人と前回（第 51 回 6,120 人）よりも減少したが、合格者数は 5,007 人となり、昨年に続き 5,000 人を超えた（図 2）。

また、養成校の定員数や国家試験の合格者数の推移等については、厚生労働省のホームページからみることができる（<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000169002.pdf>）。

2. 国家試験問題について

年々減少していた二択問題（X(2)問題）だが、今回は 23 問と、前回の 13 問より 10 問増加した。分野別では、専門基礎（共通）分野で 12 問（前回 4 問）、専門問題で 11 問（前回 9 問）となった（図 3）。二択問題の増加により合格率が低下した可能性がある（図 4）。

また、全体の 9 割の問題が「～は（なのは）どれか。」「正しいのはどれか。」という設問で、正しいものを選択肢から求める問題であった。

検討班では、国家試験問題のアンケートを Web・FAX・メールで行い 122 校（前回 117 校）から回答を得た。指摘の対象となった問題は 200 問中 68 問であった。

合格発表では、専門基礎（共通）の 2 問が複数の選択肢を正解とし、専門問題の 1 問が採点除外とされた。検討班では 8 問題を指摘し、3 問題が一致した結果となった（午前の問題番号 1、70、午後の問題番号 55）。また採点除外となった 1 問題は受験生が最初に解く、午前の 1 番目の専門問題であった。

以下に、(1) 検討班で指摘したが、一致しなかった問題、(2) その他の意見で指摘した問題、(3) 検討班で導き出した正答と異なった問題、(4) 養成校から指摘の多かった問題で、検討班として意見書で取り上げなかった問題、について再検討の結果を示す。

回数	37回	38回	39回	40回	41回	42回	43回	44回	45回	46回	47回	48回	49回	50回	51回	52回
PT	95.7	98.5	97.9	94.9	97.5	93.2	86.6	90.9	92.6	74.3	82.4	88.6	83.7	82.7	74.1	90.3
OT	90.6	91.6	95.5	88.4	91.6	85.8	73.6	81	82.2	71.1	79.7	77.3	88.6	77.5	87.6	83.7

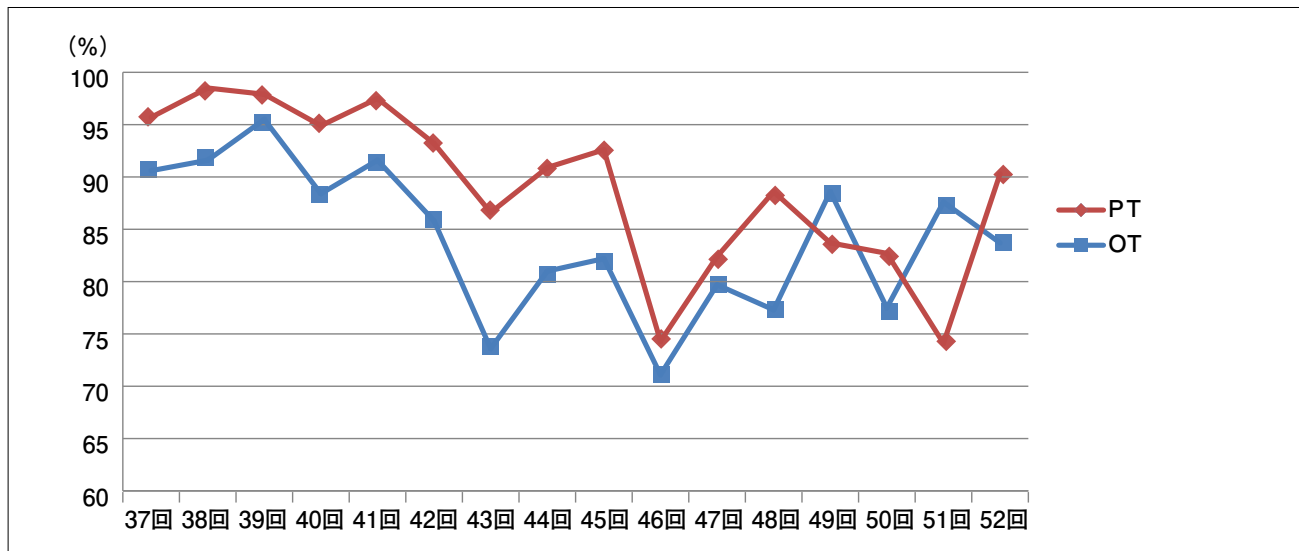


図1 作業療法士・理学療法士合格率の推移

回数	37回	38回	39回	40回	41回	42回	43回	44回	45回	46回	47回	48回	49回	50回	51回	52回
OT 合格	2,587	2,937	3,313	3,443	4,185	4,400	4,253	5,405	5,317	4,138	4,637	4,084	4,740	4,125	5,344	5,007
PT 合格	3,354	3,629	4,199	4,843	6,002	6,559	6,924	8,291	9,112	7,786	9,850	10,115	9,315	9,562	9,272	12,388

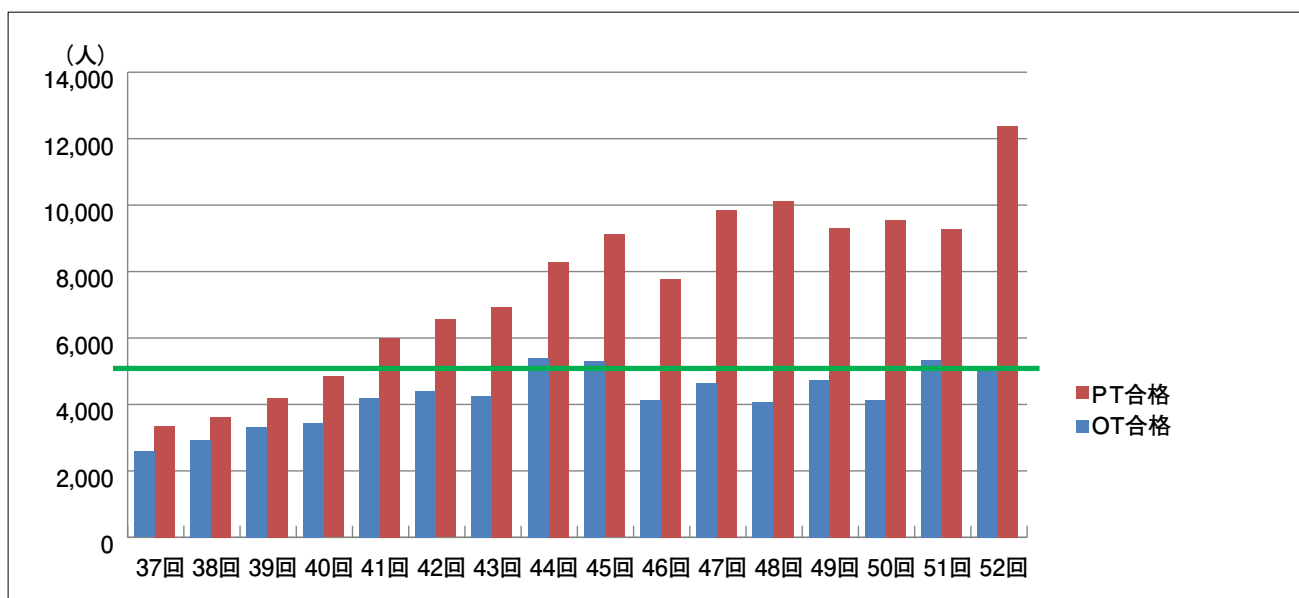


図2 作業療法士・理学療法士合格者数の推移

回数	第43回	第44回	第45回	第46回	第47回	第48回	第49回	第50回	第51回	第52回
共通問題	33	31	26	25	21	19	15	7	4	11
専門理学	42	26	30	25	15	23	20	20	7	10
専門作業	41	28	24	32	16	17	17	12	9	12

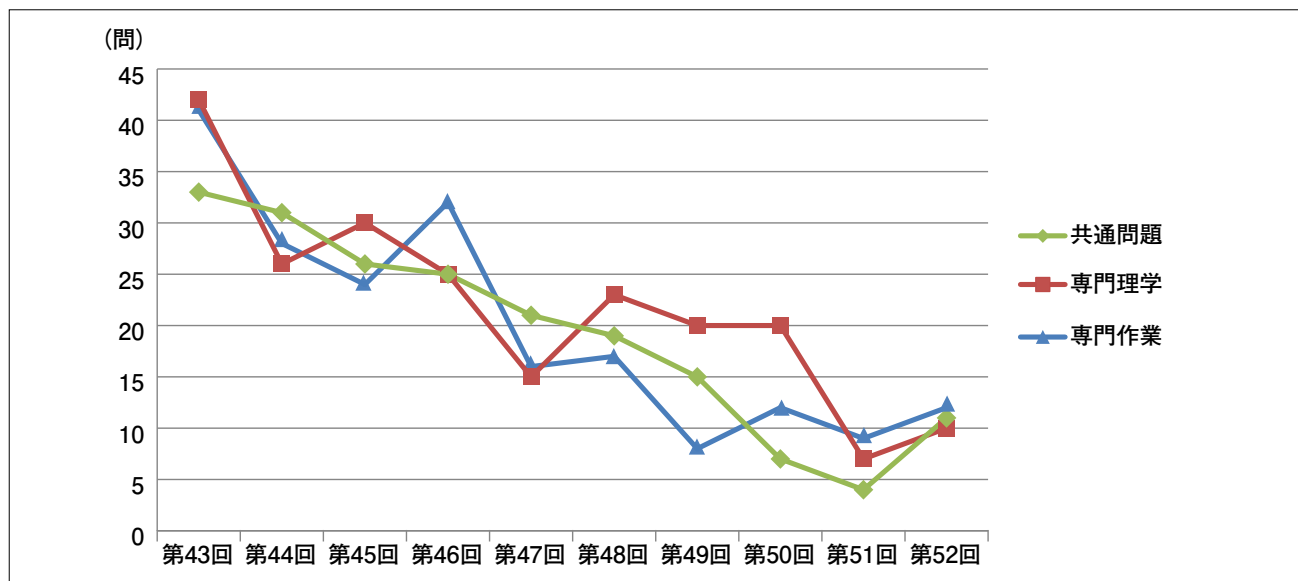


図3 2択問題 (X2 問題) 数の推移

回数	第42回	第43回	第44回	第45回	第46回	第47回	第48回	第49回	第50回	第51回	第52回
合格率 (%)	85.8	73.6	81	82.2	71	79.7	77.3	88.6	77.5	87.6	83.7
二択問題数	45	74	59	50	57	37	36	23	19	13	23

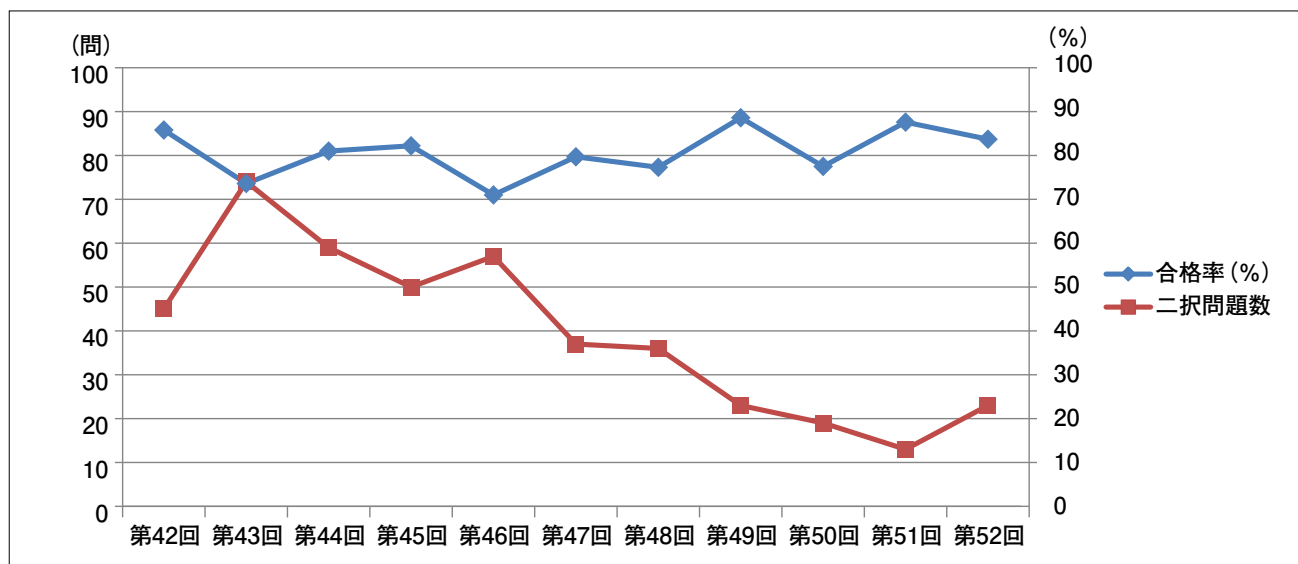


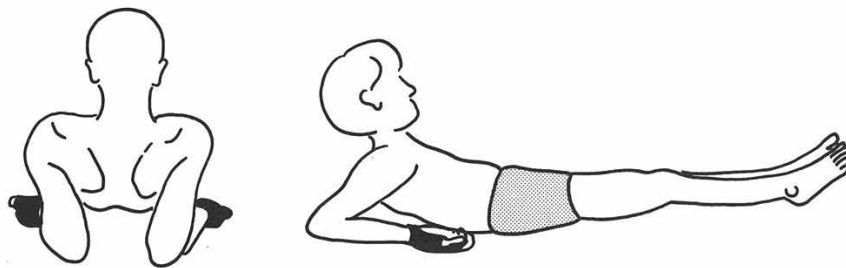
図4 2択問題数と合格率の推移

(1) 検討班で指摘したが、一致しなかった問題（再検討）

午後 問題番号（8） 指摘校数：12

8 20代の男性。頸髄損傷完全麻痺（Zancolliの四肢麻痺上肢機能分類C6B2）。仰臥位から長座位への垂直方向の起き上がり動作獲得のために練習を行っている。図に示す肢位で肩甲帯を左右に振り重心を移動することを繰り返す。

正常以上の関節可動域拡大を目的とした関節運動はどれか。



1. 頸部伸展
2. 肩甲骨外転
3. 肩関節水平伸展
4. 肩関節内旋
5. 肩関節外旋

解 説

正答は3とされた。検討班では問題文のZancolliの分類C6B2では、垂直方向での起き上がりができないことから、設問文に不備があるとして不適切とした。垂直方向の起き上がり動作獲得のための関節可動域拡大を目的とした関節運動として3が選ばれたと考えられる。

午後 問題番号 (15) 指摘校数: 3

15 32歳の女性。統合失調症。デイケアに通所しているが、いつも人を避けるように過ごしていることが多い。スタッフが面談の中でその理由を尋ねると「会話をしていると、途中から何を話しているのかわからなくなります。それが怖くて人と話をする自信がないです」と訴えた。

この患者の症状の評価で最も適切なのはどれか。

1. GAF
2. BADS
3. WCST
4. Rehab
5. BACS-J

解 説

正答は5とされた。検討班では「症状の評価」と問題文に記載されていることより、BPRSなどの症状評価尺度を使用の方が望ましいと考えたが、選択肢にないため、症状と社会的生活機能の全体的評価をするという意味で1のGAFが選択できると考えた。また、この訴えの背景に認知機能の障害がないかを確認するために、5のBACS-Jを使用することも誤りとは言い切れないと考え、複数の回答が選択できると指摘した。

午後 問題番号 (29) 指摘校数: 23

29 道具の把握形態において、編み棒と同じ手の構えをとる道具はどれか。

1. スプーン
2. 千枚通し
3. つまようじ
4. 筆
5. 包丁

解 説

正答は2とされた。検討班では、2は正解。しかし、選択肢の5も正解となると判断し、複数の解(2・5)が選択できると指摘したが、明らかに同一の構えをとる2が優先されたと考えられる。

問題文の編み棒の手の構えについて、持ち方や〇〇式などの記載がないため、正確に判断しにくい問題である。

午後 問題番号 (59) 指摘校数 : 16

59 腎臓の解剖について正しいのはどれか。

1. 糸球体は腎髄質に位置する。
2. 輸出細動脈は集合管につながる。
3. ネフロンは糸球体と尿細管からなる。
4. 輸入細動脈は Henle 係蹄につながる。
5. 腎乳頭は Bowman 嚢に覆われている。

解 説

正答は3とされた。『標準理学療法学・作業療法学 解剖学 (第4版)』には、「腎臓の構造的・機能的単位はネフロンと呼ばれ、1個の腎小体とそれに続く尿細管からなる。(…中略…)腎小体は糸球体と糸球体嚢からできている。(…中略…)糸球体嚢 [ボウマン嚢] : 糸球体を包む薄い袋で内外2葉の単層扁平上皮からできている。内葉上皮は糸球体に密着し、血管極で折れ返って外葉上皮に続く。外葉上皮は糸球体の外側を包んだのち、尿細管極で尿細管の上皮へ移行する」と記述されており、尿細管と糸球体嚢は明確に区分して説明されていることから、検討班では、ネフロンは糸球体と糸球体嚢と尿細管から成るのであり、糸球体と尿細管のみでは正解といえないと判断し、「解なし」と指摘した。

しかし、糸球体嚢 (ボウマン嚢) は尿細管の末端にあたるため、「ネフロンは糸球体と尿細管からなる」としても間違いはないと判断されたと考えられる。

午後 問題番号 (94) 指摘校数 : 1

94 血友病について正しいのはどれか。

1. 脾腫がみられる。
2. 血小板数が減少する。
3. 点状紫斑がみられる。
4. 膝に関節症をきたす。
5. 自己免疫疾患である。

解 説

正答は4とされた。検討班は文献より血友病を有する乳幼児期に点状・斑状出血斑、学童期には膝の出血が起きることを確認した。ここから、いずれの症状も該当すると判断し、複数の解 (3・4) が選択できると指摘したが、出題者は、「血友病の病態は、深部組織での出血を特徴とする」から4と判定させる意図があったと思われる。

(2) その他の意見で指摘した問題

午前 問題番号 (38) 指摘校数：1
38 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）における日常生活用具支給制度の対象となるのはどれか。 1. T 字杖 2. 前腕義手 3. 電動車椅子 4. モールド型座位保持装置 5. 重度障害者用意思伝達装置
解 説 問題文に「日常生活用具<u>支給制度</u>」とあるが正しくは「日常生活用具<u>給付等事業</u>」である。解は選択できるが理解に戸惑う可能性があるため、その他の意見として取り上げた。

午前 問題番号 (41) 指摘校数：17
41 統合失調症の精神病後抑うつからの回復初期の指標はどれか。2 つ選べ。 1. 億劫感 2. 空腹感 3. 熟眠感 4. 疲労感 5. 不安感
解 説 正答は（2・3）とされた。しかし、精神病後抑うつでは、選択肢 1 から 5 のすべての症状が認められる、と考えられる。そのため、「消去法や優先順位等から解は選べるものの他の選択肢も該当する可能性がある」とし、その他の意見として取り上げた。

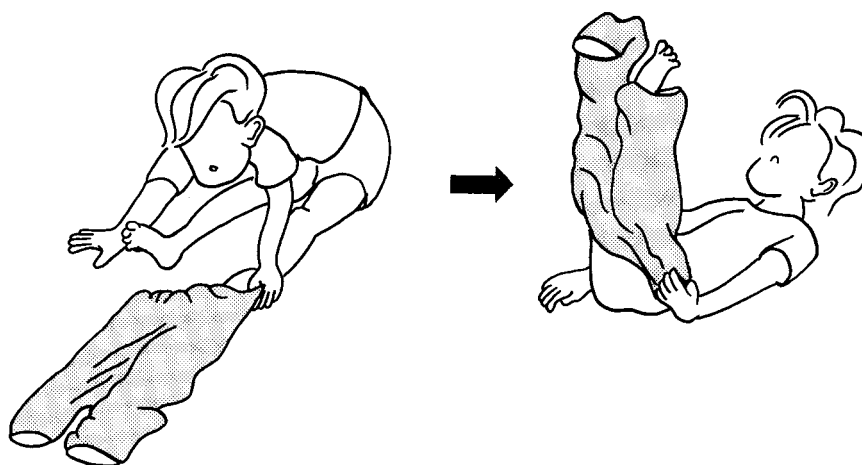
(3) 検討班で導き出した正答と異なった問題 (再検討)

午前 問題番号 (93) 指摘校数: 0
93 急性心筋梗塞後の運動療法の効果として正しいのはどれか。 1. 梗塞範囲の減少 2. 心室破裂の減少 3. 心嚢液貯留の減少 4. 左室駆出率の増加 5. 急性期心臓死の減少
解 説 正答は5とされた。 『心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン』(2012年改訂版)には、心筋梗塞における運動療法の効果として1「長期予後・死亡率の改善」と4「左室リモデリングの改善」があげられている。1「長期予後・死亡率の改善」について「心リハは通常治療に比較して総死亡を20%、心死亡を26%有意に減少させる」と記載されているが、急性期すなわち発症後1～2週間の心臓死の低下に運動療法の効果があるとする記載はない。また、同ガイドラインの急性心筋梗塞の臨床パスにおいても急性期には離床、ADL拡大のリハビリテーションが行われるのであり、運動療法導入は早くも8日目以降であり、急性期の心臓死の減少効果を運動療法の効果とする根拠は乏しい。 他方、4「左室リモデリングの改善」については、「AMI(急性心筋梗塞)後、左室機能低下(左室駆出率40%未満)患者を対象としたELVD(Exercise in Left Ventricular Dysfunction)試験において、(…中略…)6ヵ月の運動療法を行った群では左室拡大が認められず、左室駆出率が有意に改善した」と記述されており、左室駆出率が低下している患者においては駆出率が増加することが記されている。したがって、検討班では正答を4とした。

午後 問題番号 (7) 指摘校数: 1

7 8歳の男児。二分脊椎。股関節の屈曲が可能である。

図のようにズボンをはくことができる最も上位レベルの Sharrard の分類はどれか。



1. I 群
2. II 群
3. III 群
4. IV 群
5. V 群

解 説

正答は 2 とされた。検討班では、図から膝関節が伸展している状態と判断し、3 の「Sharrard 分類 III 群」を正答とした。

午後 問題番号 (17) 指摘校数：4

17 17歳の女子。高校2年生。高校入学時、身長158cm、体重55kgであったが、同級生に「太っている」と言われ、食事を制限して半年間に12kgやせた。高校1年の秋ごろから月経が不順になり、半年前から無月経となった。このため無月経と体重減少とを主訴に入院治療が開始されたが各種検査を受けることに抵抗感が強い。母親は「もともと太ってなどいなかったと説得して欲しい」と希望する。
作業療法士の患者に対する治療的態度として適切なものはどれか。2つ選べ。

1. 心理的な問題には触れない。
2. 食事については、本人の判断に任せる。
3. 受容的態度で、健康状態についての本人の考え方を尋ねる。
4. 母親の希望を受け入れて元の体重でも肥満でなかったことを説明する。
5. 全身的な健康状態を確認する必要性を伝え、臨床検査を受けることを勧める。

解 説

正答は(3・5)とされた。検討班では、正答を(1・3)とした。神経性無食欲症の治療において、作業療法士は、拒食や過食の背景の理解を図りながら、病因そのものに直接介入する治療を行わず、患者の健康な側面に視点を置いた「病理に触れないかわり」を基盤にする。本事例は検査を受けることに抵抗感を持っているため、問題文の「作業療法士の患者に対する治療的態度として」を考えた場合、5の「全身的な健康状態を確認する必要性を伝え、臨床検査を受けることを勧める」より1の「心理的な問題に触れない」の方が適切、と考えた。

午後 問題番号 (41) 指摘校数：12

41 神経症性障害患者の作業療法導入時の評価で最も重視すべきなのはどれか。

1. 就労関連技能
2. 身辺処理能力
3. 精神内界の葛藤
4. 基本的な心身機能
5. 症状への対処方法

解 説

正答は5とされた。

神経症性障害患者の作業療法導入にあたっては、病状と症状が現れた場合の対処方法について事前に情報収集する。神経症性障害の症状は多彩で、必ずしも導入時に症状が現れるとは限らず、本人の症状への対処方法を観察できるとも限らない。「まず本人の訴えを受け止め、支持的現実志向的に支援していく」という基本から考え、症状への対処方法を話題とする面接評価を行うこともありうるが、症状への囚われを助長しないという意味で、わざわざ話題にしないほうが良いという考え方もある。検討班では、導入時には基本的な心身機能の状態把握が第一と考え4を正答とした。

しかし、導入前の情報収集も含めて導入時の評価と考えれば5の「症状への対処方法」が正答といえる。

(4) 養成校から指摘の多かった問題で、検討班として意見書で取り上げなかった問題
(指摘校数が5校以上あった問題)

午前 問題番号 (23) 指摘校数: 6
23 人間作業モデルについて誤っているのはどれか。 1. 役割の変化を評価する。 2. 作業の興味を評価する。 3. 作業の重要度を10段階で評価する。 4. 人が作業に適応できるように介入する。 5. 人を意志、習慣化および遂行能力の相互作用でとらえる。
解 説 正答は3とされた。5も誤っているのではないかと指摘があったが、人間作業モデルにおける人の側面は意志、習慣化、遂行能力の相互作用からなっている。以上から3が明らかな誤りとして選択することは可能である、と考える。

午前 問題番号 (47) 指摘校数: 7
47 神経性無食欲症患者の入院治療について正しいのはどれか。 1. 活動量は目標体重に達してから増やす。 2. 早期から高カロリーの栄養補給を行う。 3. 全身状態の安定より先に行動療法を行う。 4. 食行動の問題が改善するまで入院は継続する。 5. 入院中に自己誘発性嘔吐がみられたときは退院させる。
解 説 正答は1とされた。神経性無食欲症患者の入院治療に関する問題である。(2・4)も選択できるという指摘であったが、2の栄養補給は段階づけて高カロリーにしていく、4は食行動の問題が改善しなくても外来通院で治療可能ということが記載されている文献もあり、明らかに正しい1を解として選択できる、と考える。

午前 問題番号 (58) 指摘校数 : 5

58 大脳辺縁系とその働きの組合せで正しいのはどれか。

1. 海 馬 —— 体温調節
2. 嗅 球 —— 内分泌
3. 視床下部 —— 長期記憶
4. 帯状回 —— 運動学習
5. 扁桃体 —— 短期記憶

解 説

正答は 4 とされた。検討班においても、多くの文献から正答 4 を導き出せるため指摘しなかった。

午後 問題番号 (9) 指摘校数 : 23

9 図はアトピー型脳性麻痺児の摂食訓練の様子である。

実施している手技（オーラルコントロール）の目的として適切でないのはどれか



1. 頭部コントロールの援助
2. 口周辺の過敏の脱感作
3. 口唇閉鎖の援助
4. 咀嚼運動の促進
5. 舌突出の防止

解 説

正答は 4 とされた。アトピー型脳性麻痺児の摂食訓練の手技の目的を選択する問題である。5 の舌突出の防止はオーラルコントロールによる効果ではないという指摘が多かったが、後方介助により舌突出が抑制されると記載されている文献もあり、明らかに適切でない 4 を選択できる、と考える。

午後 問題番号 (62) 指摘校数：18
62 四肢からの感覚神経伝導路について正しいのはどれか。 1. 触覚の線維は中脳で交叉する。 2. 圧覚の線維は脊髄視床路を通る。 3. 温度覚の線維は脊髄節で交叉する。 4. 一次ニューロンの細胞体は後角にある。 5. 痛覚の伝導路は延髄で二次ニューロンになる。
解 説 正答は3とされた。圧覚と脊髄視床路の関連については一部の文献で記されており2も正しいのではないかと指摘があったが、3を解とするのがより適切である、と考えた。

午後 問題番号 (78) 指摘校数：5
78 正常な肉芽の特徴はどれか。 1. 感染しやすい。 2. 乾燥している。 3. 出血しやすい。 4. 白色である。 5. 分泌物が多い。
解 説 正答は3とされた。3以外に2も選択できると指摘があったが、指摘には当たらない、と考えた。

3. 出題傾向について

・身体障害領域の出題分野について

今回、新たにポピュレーションアプローチ（午前 37）、筋電義手（午後 5）、排痰法（午後 33）、視覚障害への対応（午後 37）などの問題が出題され、より臨床的で幅広い出題範囲となった。また、地域包括ケアシステム（午後 28）や介護予防事業に関する問題（午前 43）が出題され、地域作業療法学を意識した問題が昨年同様出題された。

・精神障害領域の出題分野について

精神障害領域の問題数は、昨年と比較し微増している。昨年同様、統合失調症、うつ病、物質関連障害、摂食障害、神経症など多彩な疾患が出題された。今回は、強迫性障害や解離性障害は設問テーマとしては出題されず、選択肢内でそれらの用語が使われた。

出題内容は、例年通り、評価として患者の発言・行動から疾患や状態像を推定する設問、疾患と発言から適切な対応を選択する設問、病期から目標設定やプログラムを選択する設問が認められた。また、精神科作業療法の内容に留まらず精神科医療（入院形態）や作業療法士が支援チームの一員として参画する可能性のある精神科リハビリテーション技法（ACT・IPS・IMR・WRAP・ストレングスなど）、就労支援に関わる福祉サービス、精神障害者の就労関連要因の知識を問う設問がみられた。

・小児発達領域の出題分野について

専門基礎を含めると、脳性麻痺に関する問題が3問、小児自閉症に関する問題が3問、二分脊椎の分類に関する問題が1問、ADHDが1問、遠城寺発達検査についてが1問、乳児期の反射時期の問題が1問であった。子供の自閉症スペクトラムは「小児自閉症」で統一されていた。昨年同様 GMFCS や GMFM といった問題が文中や選択肢に出された。

例年出題される、筋ジストロフィーの問題は無かった。

今回、午後の問題で、イラストの分かりにくさの指摘が多く（午後7）（午後9）、改善を求める意見が多かった。また小児自閉症＝トランポリンのような結びつけの問題（午前48）は、根拠が不明確である。

・専門基礎（共通）問題の傾向

基礎医学系では、神経・筋に関する出題数が増加したが、他は例年と同様であった。臨床医学系では、内科学や老年医学に関する問題は一昨年から増加し、昨年度出題数が減少した整形外科に関する問題は、今年度増加し例年並みとなった。また、画像診断学の領域が専門問題および専門基礎問題で増加した。

作業療法専門問題においても、疫学や症状など臨床医学やリハビリテーション概論、リハビリテーション医学などの専門基礎領域からの出題や統計学、研究法に関する問題は昨年に引き続き数問見られた。

4. 出題範囲等について

昨年度より新しい「国家試験出題基準」に準じて出題された。専門科目は幅広い範囲から出題されてきているが、例年に比べ問題内容や構成に大きく影響したようには感じられなかった。しかし、出題範囲のⅠ基礎作業療法学－Ⅰ作業療法の基礎（大項目）－F（中項目）医療統計－b（小項目）感度、特異度にあるように、小項目に明記されている「感度」の問題が出された（午後22）。また、ポピュレーションアプローチ（午前37）のように小項目にはないが、予防（中項目）－疾病予防（小項目）が当てはまる問題や、Ⅰ基礎作業療法学－Ⅲ作業療法学の基礎（大項目）－B作業遂行要因（中項目）－d意思、価値、興味やe役割、習慣が出題範囲と思われる人間作業モデルの問題が昨年同様出題されている。

表1は検討班で作成した分野別の分類と、X2問題数を8年分まとめたものである。

5. その他 上記以外で養成校からの意見（抜粋）。

- ・ 略語や英語の理解を問う問題でなければ、正式な日本語名称で問題を作成すべき。
- ・ 生活行為向上マネジメント（Management Tool for Daily Life Performance；MTDLP）はいつから出題範囲として扱われるのか。
- ・ 大阪の受験会場が北部地域に集中しているので、南部にも設けていただきたい。
- ・ 試験会場をもう少し早く通知していただきたい。
- ・ 途中退出者の待機場所がなく、寒い室外へ退出しなくてはならなかった。

- ・試験会場への受験生以外の出入り（付き添い教員等）が厳しくなった。

*本誌第 62 号（5 月発行）の p.28 資料 2「アンケート協力校一覧」に、藍野大学医療保健学部が掲載されていまして、関係者には大変ご迷惑をおかけしました。

国家試験問題指針検討班 班員

向 文緒（班長）、遠藤浩之、草川裕也、久留宮なぎ砂、鈴木達也、中原留美子、中川与四郎、中村泰久、山崎大輔、山田英徳、山田将之、

表 1 検討班による出題範囲分類

*第 47 回以降は専門問題の一部が専門基礎問題（共通問題）分類

専門問題		第 45 回		第 46 回		第 47 回		第 48 回		第 49 回		第 50 回		第 51 回		第 52 回	
		問題数	X2	問題数	X2	問題数	X2	問題数	X2	問題数	X2	問題数	X2	問題数	X2	問題数	X2
専 1	障害別治療学（身体）	34	14	39	14	18	2	22	8	14	0	14	0	15	1	14	2
専 2	障害別治療学（精神）	34	3	38	10	22	2	16	0	21	0	26	1	24	1	26	4
専 3	OT 評価学	11	5	7	2	30	7	25	6	25	5	21	6	17	5	17	4
専 4	障害別治療学（発達）	6	0	4	0	2	1	2	2	5	0	6	0	3	0	6	0
専 5	ADL・生活環境・リハ機器	0	0	4	1	8	3	5	1	6	1	7	1	8	0	6	0
専 6	OT 概論	4	1	2	0	4	1	4	0	2	0	5	1	4	0	6	1
専 7	基礎作業学	1	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	2	0
専 8	切断と義肢学	3	1	2	1	3	1	4	0	2	0	4	2	2	0	2	0
専 9	人間発達	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0
専 10	障害別治療学（高齢者）	0	0	0	0	1	0	2	0	2	0	5	0	5	0	6	1
専 11	装具学	1	1	2	1	1	0	2	0	2	2	1	1	2	0	1	0
専 12	臨床運動学	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0
問題数		100	25	100	30	90	17	85	17	79	8	93	12	81	7	88	12

専門基礎問題（共通問題）		第 45 回		第 46 回		第 47 回		第 48 回		第 49 回		第 50 回		第 51 回		第 52 回	
		問題数	X2	問題数	X2	問題数	X2	問題数	X2	問題数	X2	問題数	X2	問題数	X2	問題数	X2
共 1	解剖生理学（植物機能）	20	5	17	2	17	3	12	2	10	2	19	2	13	0	16	2
共 2	運動機能	15	7	17	8	12	3	12	4	13	1	16	3	15	0	19	3
共 3	解剖生理学（動物機能）	13	2	11	2	10	4	23	3	27	8	13	1	20	2	12	1
共 4	整形外科	12	4	11	5	9	4	9	0	12	1	6	0	3	0	9	2
共 5	精神医学	10	2	11	0	17	1	18	3	23	1	12	0	15	1	12	2
共 6	臨床神経学	7	2	9	3	6	2	10	2	10	0	13	1	10	2	14	0
共 7	臨床心理学	8	0	4	2	5	1	5	1	3	1	7	0	6	1	5	0
共 8	内科学	6	1	9	1	9	1	12	1	7	0	6	0	13	0	12	1
共 9	病理学	4	2	6	0	8	0	6	0	6	0	4	0	6	0	5	0
共 10	リハ医学・概論・医学概論など	4	1	4	2	9	0	5	2	6	1	8	0	13	0	6	0
共 11	小児科・人間発達	1	0	1	0	4	0	3	1	4	0	3	0	5	0	2	0
	問題数	100	26	100	25	106	19	115	19	121	15	107	7	119	6	112	11

* 専門問題の範囲であっても、専門基礎問題（共通問題）に分類される問題があり問題数がそれぞれ 100 問にならない（第 47 回以降の分類）

平成 28 年度 介護保険モニター調査報告②

訪問による作業療法

制度対策部 保険対策委員会

昨年度実施したモニター調査の結果を 7 月号より掲載しています。今回は、訪問リハビリテーション事業所と訪問看護ステーションの結果を紹介します。

秋には平成 29 年度モニター調査を行います。介護領域での作業療法を概観し、制度要望へもつながる貴重な調査となりますので、ぜひ回答にご協力をお願いいたします。

送付数 訪問リハビリテーション事業所、訪問看護ステーション 計 100 施設

回答数 42 件（訪問リハビリテーション事業所 11 件、訪問看護ステーション 31 件）

表中の数値は平均値を示す。

I. サービス提供体制（リハビリテーションスタッフ配置状況）

		常勤人数	常勤換算人数
訪問リハ	作業療法士	2.2 (2.6)	5.5
	理学療法士	2.5 (1.4)	
	言語聴覚士	0.5 (0.4)	
訪問看護	作業療法士	5.1 (2.9)	10.1
	理学療法士	3.5 (3.6)	
	言語聴覚士	0.2 (0.5)	

() 内は昨年度の数値

II. 対象者の状況

(1) 介護度別利用者数とその割合

		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
訪問リハ	人数	2.4	5.8	8.5	14.9	10.6	10.8	10.6
	比率 (%)	3.8	9.1	13.4	23.4	16.7	17.0	16.7
訪問看護	人数	9.8	22.1	23.0	36.4	22.2	15.4	14.1
	比率 (%)	6.8	15.4	16.1	25.5	15.5	10.8	9.9

(2) 介護保険、医療保険ごとの利用者数

	介護保険			医療保険			
	介護計	特定疾患	精神	医療計	特定疾患	精神	小児
訪問リハ	62.5	13.3	0.9	2.3	1.3	0.5	0.2
訪問看護	127.4	4.0	0.3	63.6	21.1	12.9	8.5

(3) 認知症の診断を受けている利用者数

	H27	H28
訪問リハ	2.6	11.4
訪問看護	7.6	12.7

(4) 精神保健福祉手帳を所持している利用者数

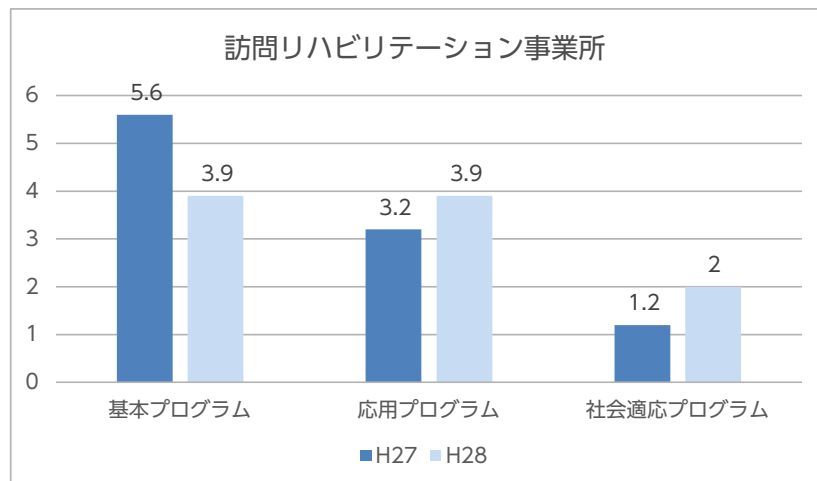
	H27	H28
訪問リハ	0.0	2.8
訪問看護	0.9	13.4

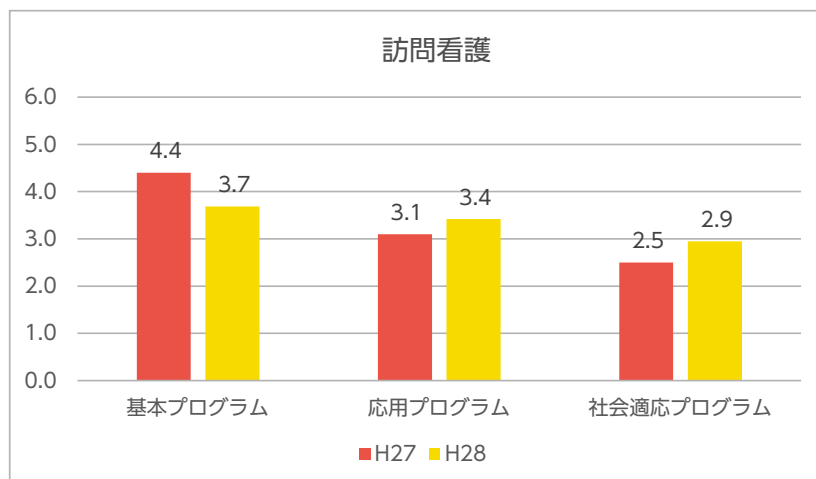
Ⅲ. 実施状況

(1) 作業療法士1人当たりの訪問件数

	H27	H28
訪問リハ	2.3	4.5
訪問看護	4.9	4.7

(2) 作業療法士が実施しているリハビリテーションプログラムの時間割合





(3) 訪問リハビリテーション事業所におけるリハビリテーションマネジメント加算の算定人数

	H27	H28
リハビリテーションマネジメント加算Ⅰ	24.4	22.7
リハビリテーションマネジメント加算Ⅱ	0.0	5.9

考 察

今回の調査では回答数が少なく、全体の状況をそのまま表している数値とは言い難いことをはじめにお断りしておく。その中でも訪問による作業療法の傾向として考えられることが2点ある。ひとつはプログラム実施割合の変化である。訪問リハビリテーション事業所、訪問看護ステーションともに、応用訓練、社会適応訓練の割合が昨年度より増えており、生活行為向上から社会参加を志向する近年の流れに沿った訪問サービスに向かっていると考えられる。もうひとつは、介護保険対象者に多い認知症だけでなく、精神疾患、小児への対応の機会も増えている

と推測されることである。介護保険対象者のみに対応している事業所もあるが、昨年度の調査よりも精神、小児の対象者は増加している。訪問リハビリテーション事業所、訪問看護ステーションともに高齢者へのサービスとの認識が一般的かと思われるが、制度としての対象者は幅広い。作業療法士は小児から高齢者まで、さまざまな疾患と障害に、生活の場に対応できる職種であることを考えると、訪問による作業療法がより地域に根差していくためには、その効果について、よりいっそうの検証が必要と考えられる。

「児童福祉領域における作業療法」意見交換会 開催のご案内

制度対策部 障害保健福祉対策委員会

平成 24 年に児童福祉法の一部改正が行われて以来、児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援の利用児童数は年々増えてきており、児童福祉領域での作業療法への期待度は高まってきております。今回、制度対策部障害保健福祉対策委員会では、児童福祉領域に関わっている作業療法士の意見交換会の場を設けることとしました。事業所で児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援等に関わる作業療法士は一人職場であることも多く、「他の事業所の作業療法士はどんなことをしているのか?」「自分自身が行っているのは本当に作業療法といえるのか?」「他職種と作業療法士は何か違うのか?」など、日々疑問に思っていることも多いかと思います。児童福祉領域での実践報告を参考に意見を交わしましょう。興味のある方のご参加をお待ちしております。

また、意見交換会前夜に参加者の懇親会を予定しておりますので、こちらにもご参加のほどよろしく願いいたします。



普段の悩みや思いを語り合いましょう!

記

1. 日 時：平成 29 年 11 月 12 日（日）9 時 30 分～ 16 時 00 分
2. 場 所：TKP 神田駅前ビジネスセンター
（東京都千代田区鍛冶町 2-2-1 三井住友銀行神田駅前ビル 5 階）
3. 参加費：無 料
4. 内 容：児童福祉に関わる制度説明（厚生労働省 障害福祉課 障害児支援専門官 石井 康信）
行政（保健福祉）での取り組み（京丹波町子育て支援課 石原 詩子）
児童福祉領域での取り組み（うめだ・あけぼの学園 酒井 康年）
グループディスカッション、意見交換
5. 定 員：30 名（申し込み順）
※同一施設から複数の申し込みがあった場合は調整させていただくことがあります。
6. 申込方法：下記の申込フォーム（QR コードで接続できます）よりお申し込みください。
申込フォーム URL [https://goo.gl/forms/b1NOGjBUSXAIEHcn2]
申込フォームが利用できない場合は、件名を「児童福祉領域意見交換会 参加申し込み」とし、本文に①会員番号 ②氏名 ③所属名 ④所属先住所 ⑤連絡先メールアドレス ⑥意見交換したい内容（例：個別の作業療法は必要？ 保育士と作業療法士は何か違うの？） ⑦懇親会出欠（参加費 4,000 円程度を予定）をご記入のうえ、ot_seido@jaot.or.jp までメールをお送りください。申込後 1 週間以内に申込受付完了の返信がない場合は、下記担当までご連絡をお願いします。
7. 申込受付期間：平成 29 年 8 月 18 日～ 9 月 30 日
8. 問合先：日本作業療法士協会 事務局（担当：遠藤）ot_seido@jaot.or.jp
9. その他：参加者は、日本作業療法士協会の会員に限ります。
昼食は各自ご持参ください。



特別支援教育での実践に関する情報交換会 (近畿地域・関東甲信越地域)のご案内

制度対策部 障害保健福祉対策委員会

日本作業療法士協会では特別支援教育への作業療法士の参画を推進するため、学校作業療法士モデル（仮称）構想を策定し、昨年度から全国各地域にて「特別支援教育での実践に関する情報交換会」を順次開催しています。今年度も7月に九州沖縄地域、中国地域で実施し、近隣県の実践者が顔を合わせ、特別支援教育での各地域の取り組みを共有することができました。

全国各地域での開催も残すところ、近畿地域、関東甲信越地域となりました。特別支援教育への関わりがなくても、会員ならどなたでもご参加いただけます。ぜひお申し込みください。



1. 開催日程等：

地 域	日 程	会 場	定員	主に対象とする都府県
近 畿	10月14日（土） 14：00～16：30	アーバネックス御池ビル会議室 京都市中京区車屋町御池下ル梅屋町 361-1 アーバネックス御池ビル	40	京都、奈良、 大阪、和歌山、 滋賀、兵庫
関東甲信越①	11月4日（土） 14：00～16：30	TKP 神田駅前ビジネスセンター 東京都千代田区神田鍛冶町 2-2-1	30	新潟、長野、 山梨、群馬、 栃木、茨城
関東甲信越②	11月5日（日） 10：30～12：30	日本作業療法士協会 10 階 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル	50	東京、埼玉、 千葉、神奈川

※ 懇親会も行います。あわせてご参加ください。

2. 申込方法：

- 日本作業療法士協会事務局にメールで申し込んでください。
- メールの标题を「特別支援教育情報交換会申込」とし、本文に①氏名②会員番号③所属士会④所属施設名⑤参加希望する日⑥特別支援教育への関わりの有無、有の場合は簡単に内容を記載してください。

3. 申 込 先：ot_seido@jaot.or.jp（電話での受付は行いません）

4. 参 加 費：無 料

5. 申込締切：近畿地域 平成 29 年 10 月 6 日（金） 関東甲信越地域 平成 29 年 10 月 23 日（月）

『保育所等訪問支援の効果的な実施を図るための手引書』ができました

制度対策部 障害保健福祉対策委員会

すでにご存じの方も多いと思うが、2018年度には障害福祉領域においても報酬改定が行われることになっている。厚生労働省において検討チームが立ち上がり、5月31日の第1回を皮切りに議論がスタートしているところである。

今回の報酬改定においていくつか注目ポイントがあるが、障害児福祉における一つの着目点は、全国でのより一層の展開が強く期待されている保育所等訪問支援に対して、どのような改定がなされるかである。その保育所等訪問支援については、創設以来、期待を受けながら、全国的に思ったような展開が見られていない状況がある。実践している方からは多くの成果が上がっているという報告があるのに、である。

そのような状況を打開するため、厚生労働省で『保育所等訪問支援の効果的な実施を図るための手引書』を作成し、公開したので、ここに紹介する。

○保育所等訪問支援とは

保育所等訪問支援は、2012年の児童福祉法改正により創設された障害児通所支援事業の一類型である。これまでの多くの事業が子どもが施設に通うスタイルであるのに対し、保育所等訪問支援はスタッフが子どもの生活する場を訪問して支援を行うことができるアウトリーチ型の事業である。

○なぜ、着目されているのか

現在、わが国では、障害のある人であってもない人であっても、住み慣れた地域で共に暮らす社会（インクルーシブ社会）の実現が目指されている。この保育所等訪問支援では、子どもが生活する実際の場を訪問し、共に暮らすことを目指した時に、その場で生じている課題をその場で具体的に検討していくことができる。インクルーシブ社会の実現において、大きく期待されている事業と言える。

○今後の展開

実際に訪問できる場所としては保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、特別支援学校、その他児童が集団生活を営む施設として市町村が認める施設となっている。その他の施設として具体的には放課後児童クラブや中学校などでの実践が行われている。

なお、来年度4月からは、乳児院や児童養護施設も訪問施設として認められることになっており、保育所等訪問支援への期待がわかるだろう。

○もっと詳しく知るには

協会では、会員のみなさんにこの事業をよく知ってもらうため、本誌において連載を行った（No.55～60（2016年10月～2017年3月））。事業の紹介にとどまらず、事例や家族支援の取り組みなどの紹介を行っている。ぜひバックナンバーにあたってください。

○手引書について

先に紹介した通り、厚生労働省においては、全国各地で保育所等訪問支援の展開を牽引するため推進事業を実施し、その成果として『保育所等訪問支援の効果的な実施を図るための手引書』を公開した。なお、作成にあたっては作業療法士もそのメンバーとして参加している。

厚生労働省ホームページ（>政策について>分野別の政策一覧>福祉・介護>障害者福祉>障害児支援施策）に掲載されている。または、「保育所等」「手引き」という二つのキーワードを入れて検索をかけることでヒットする。

手引書には、これから取り組もうとしている事業所向けの情報が掲載されている。保育所等訪問支援創設の背景に始まり、事業の開始に当たって準備すること、地域の園や学校とスムーズな連携を開始するために必要なこと、保育所等訪問支援ならではのアセスメントについて、実際に訪問した時に行うこと、情報交換でなされること、家族との連携について、記録用紙、個別支援計画の書式例など具体的な情報が満載である。あわせて実際の事例も複数紹介されている。

生活を支援する専門家である作業療法士にとって、実際の生活の場を訪問して支援にあたることのできるこの事業が、格好の出番になることは間違いない。多くの会員の参画と、その成果報告を待っている。一人でも多くの子どもの地域生活の充実のために、インクルーシブ社会の実現に向けた一歩のために、期待している。



第44回 国際福祉機器展 H.C.R.2017 開催案内

国際福祉機器展 H.C.R.2017 に参加しよう！世界の福祉機器が一堂に！

制度対策部 福祉用具対策委員会

第44回 国際福祉機器展 H.C.R.2017 が9月27日（水）～29日（金）に東京ビッグサイトで開催される。1974年に厚生省と全国社会福祉協議会の共催により始まった福祉機器展 H.C.R. は、いまやアジア最大規模に達している。昨年の国際福祉機器展 H.C.R.2016 では、17 ヶ国 1 地域より 527 社の企業・団体が数多くの製品を展示した。来場者数も 12 万人を超え、ハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した介護ロボットまで、福祉機器の今・未来を、見て、触って、確かめることができる。また、期間中、保健・医療・福祉・介護の各分野の制度改革や事業活動を紹介する国際シンポジウムやセミナーなども行われる。あなたも国際福祉機器展 H.C.R.2017 に行って、最新の福祉機器に触れ、臨床に有効な情報を入手してみたいだろうか。

◆作業療法士による「相談コーナー」や士会によるブース展示も！

会場内には、主催者である一般財団法人保健福祉広報協会の依頼で、当協会の福祉用具対策委員会が協力し、福祉機器に関する「相談コーナー」が設けられている。今年も委員会よりスタッフを派遣し、福祉機器の専門家として、福祉機器の適切な選び方や使い方など、来場者の相談に応じて助言や提案を行う。

また、東京都作業療法士会を中心に、神奈川県作業療法士会、千葉県作業療法士会、山梨県作業療法士会が協力し、ブース出展を行うので、是非お立ち寄りいただきたい。

主 催：社会福祉法人全国社会福祉協議会・一般財団法人保健福祉広報協会

会 期：2017 年 09 月 27 日（水）～09 月 29 日（金）

会 場：東京ビッグサイト東展示ホール

出展社：約 550 社（見込み）

来場者：約 12 万人（見込み）

入場料：無料（登録制：事前もしくは当日）

<主な企画>

- ・海外の社会保障、福祉制度・施策に関するシンポジウムの開催
海外の社会保障、福祉制度・施策に関する最新動向や情報提供のため、国際シンポジウムを開催します。
- ・利用者・家族向けのセミナーの開催
福祉機器の適切な選び方・使い方の知識や情報提供など、利用者・家族向けに役立つテーマでセミナーを開催します。
- ・福祉施設役職員・福祉機器企業関係者など向けのセミナーの開催
福祉施設職員、福祉機器企業関係などへの情報提供やスキルアップのためのセミナーを開催します。
- ・時代の変化に応じた特別企画を開催
最新の福祉機器や介護ロボット、障害のある子ども向けの機器の手中展示や療育相談や、高齢者向けの料理講座の開催など、毎年多彩な企画・催事を開催します。

登録事例の紹介 ～精神科領域における訪問での作業療法～

学術部学術委員会事例登録班では、登録事例の中からテーマに即した事例をピックアップし紹介している。今回のテーマは「精神科領域における訪問での作業療法」である。近年、精神科領域においても地域移行が進んでいる。われわれが訪問看護の枠組で精神科領域に従事し診療報酬を請求することは、一定以上の精神科領域での就労経験か、または未経験であっても算定要件研修を受講することで可能となる。このため、特に経験の浅い作業療法士はどのように介入を進めるべきかを苦慮していることが予想される。まだまだ実践報告も少ないことから、事例の報告を企画した。会員諸氏には精神科訪問看護における作業療法の一層の発展のため、積極的に研鑽を積み、実践成果を事例報告として登録し、その有用性を内外に示していくことを期待する。

学術部 学術委員会 事例登録班

精神科訪問看護における作業療法士の地域生活支援

デイケアを継続利用している単身の男性利用者に対して精神科訪問看護（以下、訪問看護）による支援の結果、生活能力が高まり、対人交流にも広がりが出てきたことで生活範囲が拡大し、より主体的で自律的な生活が送れるようになったので報告する。

【事例紹介】

事例は30歳代後半の男性、統合失調症。生後すぐに両親が離婚し、父親と生活していた。小学校低学年の頃、父親が再婚したが義母に甘えることもできずに育った。中学校卒業後は父親の経営する電気会社で電柱の埋め込み作業などを経験したが、半年程で自閉的な生活を送るようになった。後に幻覚妄想が出現し、通院するもすぐに自己中断、未治療のまま約10年が経過した。その後、再び精神症状が悪化し、医療保護入院となるが退院後も服薬コンプライアンス不良や家族に対する粗暴行為などが原因で入退院を繰り返した。30歳代前半に自宅退院した後は外来通院とデイケアを1年程利用し、本人希望により訪問看護が追加導入となった。

作業療法評価では、ADLは自立し、実家の近隣にある一軒家で単身生活をしていて、食事は自炊経験がほぼないため、毎晩の夕食やデイケアのない日は弁当を買って食べていた。対人交流は稚拙で他者への配慮が苦手であり、デイケア利用者同士の交流は乏しかった。また、余暇活動においても自室でテレビやゲームをして過ごしていることが多かった。作業遂行能力に大きな支障はなかった。服薬コンプライアンスは現在でも時々自己中断することがあり、幻聴などで日常生活に支障を来すことがあった。

介入の基本方針は①自炊能力の向上を図り生活上

の選択肢を広げていく、②地域の利用可能な社会資源を利用し生活範囲の拡大を図る、③訪問看護における二者関係を活かしながら対人交流技能の改善を図る、とした。

作業療法実施計画としては、週1回訪問し家事と余暇活動を毎週交互に実施する。家事は自炊能力の向上を主目的とし、料理の献立決めから、買い物、調理、後片付けまで進めていく。余暇活動は作業療法士が社会資源の情報提供を行い、その中から本人の興味や目的に合わせて体験利用に繋げていく。

【作業療法の開始】

介入経過は、料理のレパートリーが徐々に増えるのと自炊中心となり、「食事が一人で作れるようになってきたからもうデイケアは卒業する」とデイケア終了となった。また、主治医から肥満を指摘され「体重を減らして長生きするために毎日ウォーキングをやりたい」との希望があり、余暇活動の中でウォーキングをスタートした。しかし、本人からデイケア再利用の希望があり、利用目的（友達づくりや就労前準備など）を明確にしたうえで再利用となった。

【まとめ】

訪問看護による支援の結果、自炊中心の食生活に変化した。余暇活動では地域のショッピングセンターなどにも外出するようになり、ウォーキングは毎朝の日課となった。また、対人交流では常連客として通い始めた近所の八百屋やスーパーの店員から“人懐っこい少し面白いお客さん”として親しみを持たれようになり、対人交流に広がりが見られるようになった。

退院後は自宅とデイケアを往復する固定的な生活パターンが続いていたが、家事や余暇活動を中心に具体的な介入ができたことで生活能力の向上を図ることができた。また、対人交流においては訪問看護

における作業療法士との安定した二者関係を活かし、作業療法士以外の他者から受容される体験や普遍的体験を積み重ねていくことで自己尊重感が高まり、生活範囲が拡大していったと考えられる。

就労に向けた訪問支援～対象者のストレングスに着目して～

精神科訪問看護（以下、訪問看護）による介入によって、本人や環境の持つストレングスに着目し、就労を中心とした地域生活支援を実施した結果、一定の成果が得られたので報告する。

【事例紹介】

事例は 20 歳代前半の男性。統合失調症。生後まもなく両親が離婚し父親に引き取られるが、経済的事情により児童養護施設で育つ。退所後は県外の有期労働で約 3 年間働き、契約期間満了後は父親の住む自宅に戻り 2 人暮らしを始める。約半年後、本人が不眠と幻聴を訴えて当院初受診。初受診から継続して外来通院中で服薬コンプライアンスは良好であった。生活リズムの改善や就労支援を目的に訪問看護開始となった。

作業療法評価では ADL は概ね自立していた。外出は月 2 回の外来通院と近所のコンビニエンスストアを週数回利用する程度で一日の大半を臥床して過ごしていることが多かった。就労意欲はあるがアルバイト面接を連続不採用になり、自己評価の低下がみられた。

作業遂行能力は指示理解や集中力、器用さもある反面、臥床傾向による基礎体力の低下や、対人面においては思いを相手に伝えられない面があった。父親との関係性については生育歴より互いに遠慮し合っていた。本人のストレングスは野球、カラオケ、手先が器用、自転車であった。

介入の基本方針は、①本人のストレングスを取り入れた作業活動の導入や利用可能な社会資源を紹介し、生活リズムの改善や基礎体力の向上、自己表現の促進、休息の取り方を獲得する、②本人の就労意欲やペースを大切にしつつ関係機関や関係職種と連携、役割分担を図りながら支援していく。

作業療法実施計画は、①キャッチボールや自転車など、身体活動を取り入れた外出プログラムを実施する、②自治体で開催しているデイケアの体験利用を試みる、③就労に関連する社会資源を紹介し、本人と関係機関のネットワーク作りを進めていく。

【作業療法の開始】

介入経過は、外出活動では自転車で近くの公園まで行きキャッチボールを行っていると言及きな発言が聞かれるようになった。デイケアの体験利用では、カラオケとコースター作りを選択した。求職活動ではハローワークや障害者就業生活支援センターに向いたが、通勤圏内における求人情報が乏しく、次第に諦めや苛立ちの発言があった。

関係機関の働きかけもあり、自宅近くの宿泊ホテルから就職を前提とした職場適応訓練事業の提案が持ち上がった。新たな挑戦に対して不安な気持ちと、訓練が順調に進めば正式雇用につながる可能性があること、訓練期間中は訓練手当てが受けられることから利用に前向きな意思を示した。利用開始に向けて開催した会議では、作業療法士は医療機関の立場から本人の生活の様子や障害特性、職業能力、環境調整などについて説明を行った。

結果は午前中の外出活動や週 3 回のデイケアを継続的かつ安定的に利用でき、生活リズムや基礎体力の回復だけでなく、自己表現が促され、仲間作りにも繋がった。

【まとめ】

今回の訪問看護では就労支援に限定せず、キャッチボールや自転車、デイケアではコースター作りやカラオケなど、本人や環境の持つストレングスに着目した関わりを多く持つようにした。こうした関わりはラポール形成がしやすく、就労など何か大きなことに踏み出す際の安心感に繋がるとともに、目標へうまく進まない場合に「できる活動」「やりたい活動」が緩衝的・発散的な作用として働いていたと考える。また、就労支援は本人が厳しい現実と直面することもあり、ストレスなどが高まった時期に支援者全体で寄り添い、作業療法士もより良い関係性の中で支援を継続できたことが本人のリカバリーを促進していくうえでの一助になったと考える。



英語ポスター・スライド作成のコツをお伝えします！

国際部主催「国際学会発表準備セミナー」のご紹介

これからの1年間、国際学会が数多く予定されています。まず今年10月には台湾で「アジア太平洋作業療法シンポジウム」が、そして来年5月には南アフリカ共和国で「世界作業療法士連盟大会」が開催されます。発表を予定されている協会の皆様方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

ところで、実はポスターやスライド発表には、国際的な「暗黙のルール」があるのをご存知でしょうか。たとえば、図のようにポスターではImpact Statement（強調点）を一番上にご記載します。さらに、表やグラフのタイトルは「直接的タイトル」（例：疲労とQOLの関係）ではなく、「説明的タイトル」（例：疲労の増加によりQOLが低下する）を用いることも推奨されています。その他にも、背景や文字色の使い方、言葉回しや服装など、国際学会には様々な「暗黙のルール」があるのです。

そこで、今年度は9月30日（土）に東京で「国際学会発表準備セミナー」を開催いたします。セミナーでは、英語でのポスター・スライド作成のコツをお伝えした後に、実際にポスター・スライドを作成する演習を行います。さらにセミナーの後半では、口述発表や質疑応答で使える英語のフレーズなどの演習も予定しています。近々発表の予定のある方は、ぜひご自身の抄録をご持参ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

詳しくは、協会ホームページ（www.jaot.or.jp）の研修会案内ページをご確認ください。

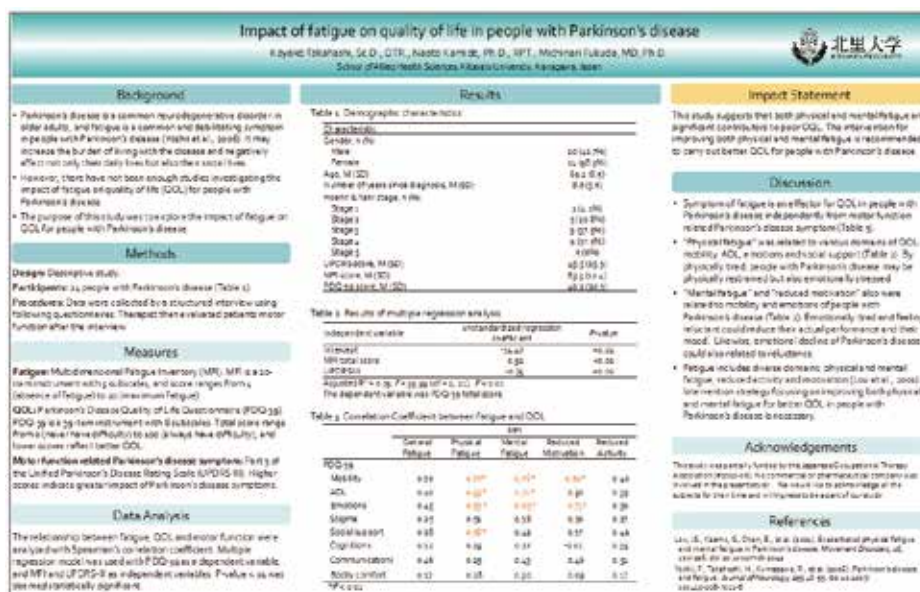


図 国際学会のポスター例



国際部

国際部では作業療法士による国際協力の状況を把握することを目的に、アンケートを実施することになりました。

今回はWebによるアンケートを採用し、Google(グーグル)のWebアンケートシステム google form(グーグルフォーム) を使用し実施いたします。また、調査結果は「日本の作業療法士による国際協力のあゆみ」として冊子化し刊行する予定です。

【対象者】下記の①～③の全てに該当する方

- ①作業療法士有資格者
- ②日本作業療法士協会会員の方
- ③ JICA/ 国際協力機構が実施する下記の活動経験を有する方
 - ・ 青年海外協力隊の経験を有する方
 - ・ シニアボランティアの経験を有する方
 - ・ 日系社会青年ボランティアの経験を有する方
 - ・ 日系社会シニアボランティアの経験を有する方
 - ・ 短期ボランティアの経験を有する方

【 Web アンケート 】

- ・ 下記の URL または QR コードからアクセスしてください。
- ・ アンケートの所要時間は 5 分程度です。

<https://goo.gl/forms/56ugT09GPvb7swI62>



【 Web アンケート締切】

2017 年 8 月 31 日 (木)

【 問い合わせ 】

日本作業療法士協会 国際部

「日本の作業療法士による国際協力のあゆみ」制作担当

E-mail : ayumisakusei2017@gmail.com

Web アンケートのトップ画面

総合事業 5分間 講読

「講読」とは「書物を読んで、その意味・内容などを解き明かすこと」とあります。作業療法士の実践を知り、自分なりの総合事業のあり方を考える道具としてご活用ください。

作業療法士ができる地域づくり ～そのひと針に想いを込めて～

せんだんの丘 ぷらすあらい

大塚 英樹

はじめに

筆者は、仙台市介護予防・日常生活支援総合事業（以下、総合事業）の生活支援通所型サービス（以下、生活支援通所）で管理者兼作業療法士として勤務している。仙台市の総合事業は平成29年4月よりスタートし、当法人ではそれに合わせ、新規で生活支援通所を開設した。開設準備から本稿執筆までの短い期間ではあるが、これまでの経緯と、現在の取り組みについて述べる。

宮城県仙台市の保険者情報

東北唯一の政令指定都市である仙台市は、平成27年10月現在、人口は約100万人、高齢化率は22.2%、第1号被保険者の保険料は5,493円（基準額）、地域包括支援センター（以下、包括）は50ヵ所あり、その全てが委託である。仙台市の地域ケア会議にあたる多職種連携会議は平成25年から試行的に実施され、5区のうち4区で作業療法士が会議の構成員となっている。総合事業では、住民主体による支援のB型、移動支援のD型の運用はなく、一般介護予防事業のリハビリテーション専門職の活用は予定されていない。

総合事業参画への背景

筆者が所属するせんだんの丘は在宅強化型の介護老人保健施設を本体としている。加えて、通所リハビリテーション、訪問看護、福祉用具、定期巡回随時対応訪問介護看護などの多種多様な居宅サービスを有し、単に在宅復帰するだけでなく、その後の在宅生活の継続を重点に支援している。平成19年には作業療法士を配置した介護予防通所介護を立ち

上げ、早期からの介護予防に取り組んでいる。

法人全体として、相談員や居宅の介護支援専門員、福祉用具貸与事業所などに作業療法士を専従で配属し、多様な角度からの自立支援を特徴としている。そのような法人の自立支援の指向性が、総合事業の目的である「多様な主体が参画しての地域の支えあいの体制づくり」に適い、生活支援通所の開設に至った。

新たな地域での関係づくり

総合事業開始に伴って新規で開設したせんだんの丘ぷらすあらい（以下、当事業所）は、本体から距離にして20km、時間にして車で1時間弱の全く新しい土地での事業開始となった。人員配置は筆者と聴覚障害3級のスタッフ2名、要支援・事業対象者への支援を事業の軸とし、月・水・金曜日午後は、地域づくりのための時間を設けた。

東日本大震災で多大な被害に見舞われたこのエリアは、地域づくりのマネジメントをしている法人が存在し、地域づくりのために地域住民と「官・民」を交え活動していた。筆者はその法人の担当者（以下、担当者）と定期的にお互いが持つ地域づくりの視点を話し合い、共有する部分を確かめ合った。開設の前月には、共催でイベントを実施したが、参加者は0名と、厳しい船出であった。一方でこの時期には、「当事業所が地域のために何かしたい」ことを担当者と共有できており、「知り合いの福祉委員がサロンの運営で困っている」「子ども会を開く場所がないと会長が言っていた」など、地域の困り事の相談を受ける関係となった。

この地区を担当する包括には、当事業所がこの地域でどのように尽力できるかを説明した。包括の所長は、担当エリアに比較して包括職員が少なく、や

りたいことがなかなかできない現状を語り、「地域に出てくれるリハの人は少ないから、貴重です」と感想を述べた。現在、包括からは、介護予防教室の講師、被災地域での自主グループ立ち上げの相談を受けている。

作業療法士の地域づくり実践

1) サロン活動

全国老人保健施設協会の研究事業を活用して介護予防サロンを開催した。担当者に福祉委員や、町内会長を紹介してもらい、サロンの説明や回覧板での告知を依頼し、10名弱の参加を得た。参加者の一人の70歳代の女性は、筆者からの提案を受け、数十年ぶりの編み物を再開することになった（写真1）。先日の母の日には、長女からカーネーションと毛糸をプレゼントされ、「孫のためにサマーセーターを編もうと思って」と、編み物の教本を持参して作業を続けている。



写真1 編み物をする70歳代女性

2) 手話教室

当事業所のスタッフと、近隣のケアハウスに住む聴覚障害者の70歳代の男性が交流する機会があった。男性からの「聴覚障害者同士のコミュニケーションの機会が少ない」との話を聞き、筆者とスタッフでケアハウスに通い、交流を続けている。ケアハウス職員や同居者からも「簡単な手話を覚えて男性と話したい」との意向があり、出前の手話教室が開催されている（写真2）。ケアハウス職員からは「（男性が）手話で話すと生き生きとして嬉しそうです。私たちも覚えたいです」と話している。



写真2 手話教室の様子

作業療法士だからこそ地域づくりと課題

全国各地で総合事業が開始され、それぞれの地域づくりが動き始めている。一部の先進的な地域では、すでに作業療法士が「作業を通じて元気になれる」ことを示し、総合事業に大きく関わっているが、多くの作業療法士はその活躍の場として総合事業を見ていない・見ることができないのが現状ではないだろうか。

筆者はこの数ヶ月、前述した背景から、作業療法士としての地域づくりが業務となった。作業療法士の筆者と、聴覚障害3級のスタッフという「人」と、事業所という「場」を使い、対象者が求める作業を通じて地域の一人ひとりを、ひと針ひと針に縫い物をするようにつなぎ合わせている。そこに編み物や手話という作業を通じて起こる変化を見、作業療法士ならではの地域づくりが、総合事業の目的を達成するために必要だと実感している。

しかし、この間のすべての活動が無報酬で行われていることは、今後の地域づくりを続けていくうえでの大きな課題である。理念だけでは支援できないことを作業療法士が自覚し、作業療法士ならではの地域づくりが、地域包括ケアシステムに取り込まれていくよう働きかけていきたい。

地域包括ケアシステム推進委員会 佐藤孝臣理事より一言

地域包括ケアシステムとは「地域作り」とも言われている。「個」から「住民」へ、そして「地域」へ繋げる意識が必要である。大塚氏の取り組みは「作業を通じて“地域”が元気になれる」実践を行っている。そのためには作業療法士以外の多くの人を繋ぐこと、そして時間・労力・工夫が必要となるが、今回の報告はその課題をどう展開するかを示唆になったのではないだろうか。一方で、この取り組みが属人的でなく継続性を持ったものとなるための地域課題に対する議論も必要である。



第51回日本作業療法学会 参加者の皆様へ

学会運営委員会

いよいよ第 51 回日本作業療法学会の会期が近づいてきました。第 51 回学会も前回に引き続き 9 月開催となり、準備運営についても学術部学会運営委員会が担当しております。今学会も、学術大会という本来の目的に立ち還ることをテーマに、種々のプログラムを企画しました。作業療法へのニーズや期待が多様化する中での「作業療法の挑戦」を目の当たりにできるまたとない機会です。皆様のご参加をお待ちしております。

***** 参加者へのご案内 *****

事前参加登録は 2017 年 8 月 31 日（木）までです！

参加を検討している方は事前参加登録をぜひご利用ください。

学会参加費について

※当日参加のお支払いは、当日受付で行ってください。

正 会 員		WFOT 会 員	他 職 種	学 生	非 会 員
一般社団法人日本作業療法士協会の会員		15,000 円	12,000 円	6,000 円	20,000 円
<事前登録>	<当日受付>				
全日程参加 12,000 円	全日程参加 15,000 円	事前登録は ありません	事前登録は ありません	事前登録は ありません	事前登録は ありません
申込期間 2017年6月1日～ 2017年8月31日	1 日参加 8,000 円		※職種が明らかに できる証明証等 ご持参ください		※職種が明らかに できる証明証等 ご持参ください

※一般社団法人日本作業療法士協会の会員でありかつ学生（学部生・大学院生）の方は、正会員としての参加費をお支払いください。

※公開講座は無料です。

【受付方法】

※当日受付の場合：総合受付前の記名台に設置している「当日参加申込用紙」に必要事項をご記入の上「平成 29 年度会員証」と一緒に当日受付へご提示いただき参加費をお支払いください。

参加費はお釣りのないようにご用意ください。

「平成 29 年度会員証」は、必ずご持参ください。

お忘れの場合は、受付にお時間がかかる場合がございますので、ご注意ください。

協会年会費をお振り込みでない方は、必ず、学会期日 2 週間前までにお支払いをお済ませください。

※会期直前に協会年会費をお振り込みされた場合は、

必ず領収証（払込受付証明証）をご持参ください。

※ネームカードに氏名、所属を記入し、会場内では必ず首から提げてください。

※発行された学会参加ポイントシールの再発行はできませんので、紛失しないようご注意ください。

【事前登録を完了された方の受付】

事前登録を完了された方には、運営事務局より QR コード付きの入金確認メールをお送りしております。この QR コード付きメールを印刷し当日必ず持参してください。事前登録受付の参加証発券コーナーで QR コードを用いて参加証・領収書・

ポイントシールが一体となったカードをお受け取りください。事前登録を完了したにもかかわらず入金確認メールが届かない場合には、運営事務局までご連絡ください。

【当日受付会場・時間】

日 付	時間帯	場 所
9月22日(金)	9:00～18:00	ガラス棟地下1階 ロビーギャラリー
9月23日(土)	8:00～18:00	
9月24日(日)	8:30～12:00	ホールC 1階ロビー

クロークについて

日 付	時間帯	場 所
9月22日(金)	9:00～20:00	ガラス棟地下1階 ロビーギャラリー
9月23日(土)	8:00～20:00	
9月24日(日)	8:30～13:00	ホールC 1階

※日程によって時間が変わりますのでご注意ください。
お預かりできない物:現金などの貴重品、PC、傘(日傘)、割れ物、お弁当などの生もの

託児室について

託児室を開設いたします(事前申込制)。詳細については、学会ホームページにてご案内しておりますので、ご確認ください。

機器展示について【9月22日(金)・9月23日(土)】

ガラス棟地下2階にて機器展示を行います。各種リハビリテーション機器、福祉機器、アクティビティ素材、遊具等の展示が行われます。

協会事務局受付

期日中、万が一会員証を持参しなかった場合は、協会事務局受付で仮会員証の発行を行うことができます。

※協会事務局受付では、新規入会申込受付および年会費の納入受付は行っておりません。必ず会期前に協会入会手続きおよび当年度年会費を納入したうえで、学会に参加してください。

***** 口述発表者の皆様へ *****

PC 受付(発表データ受付)

1) 受付時間は以下の通りです。

日 付	時間帯	場 所
9月22日(金)	9:00～18:00	ホールB5 ホワイエ
9月23日(土)	8:00～20:00	
9月24日(日)	8:30～11:00	

2) 運営事務局では、発表データの事前受付は行っておりません。

3) 日本作業療法士協会生涯教育ポイントシールをPC受付で配布しておりますので、お受け取りください。

口述発表(一般演題/スペシャルセッション)の方法

1) 発表者は、セッション開始1時間前までにPC受付をお済ませのうえ、各自の当該セッション開始10分前までに、次発表者席にご着席ください。

■発表時間

一般演題:発表7分、質疑応答3分

スペシャルセッション:発表10分、質疑応答5分

※終了1分前と終了時に合図をします。発表者は時間厳守をお願いします。

2) 発表用データの画面送りは、発表者に行ってください。演台上にはデータをコピーしたPC、マウスを準備しておりますので、演台上のPCモニターを確認しながら、画面送りの操作を行ってください。レーザーポインターも演台上に準備いたしますのでご利用ください。

※「口述発表の環境・手続き」については、学会ホームページの「座長・演者へのご案内」をご確認ください

***** ポスター発表者の皆様へ *****

ポスター発表の受付

学会参加受付を済ませた後に、ポスター発表受付にお越しください。担当発表会場によって受付場所が異なりますので下記を参照してください。

第8～第12会場 → ガラス棟4階 G402

第13会場 → 展示ホール

ポスター発表の方法

- 1) ポスター発表は1時間設けており、自由討議形式で実施します。
- 2) 発表者はセッション開始1時間前までにポスター受付をお済ませのうえ、各自のパネル前に当該セッション開始10分前までに待機してください。
- 3) 時間中はポスター前から離れないようにしてください。座長・司会はいませんので、時間中に参加者との討議をお願いいたします。
- 4) ポスター発表受付の際に、日本作業療法士協会生涯教育ポイントシール（筆頭発表者分）をお渡しします。
※ ポイントシールは筆頭発表者分のみの配布となります（共著者は配布の対象ではありません）。

ポスターの掲示・撤去方法

- 1) ポスター掲示は、9月22日（金）・23日（土）の2日間を設定しています。1日ごとの貼り替えとなりますのでご注意ください。
- 2) ポスターの貼り付け

日 付	時間帯
9月22日（金）	9：00～10：00
9月23日（土）	8：30～10：40

円滑な学会運営のため、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

- 3) ポスターの撤去

日 付	時間帯
9月22日（金）	18：00～19：00
9月23日（土）	17：30～18：30

撤去時間を過ぎても掲示してあるポスターは学会側で撤去処分いたしますので、あらかじめご了承ください。

***** 座長の皆様へ *****

口述発表（一般演題）の座長の皆様へ

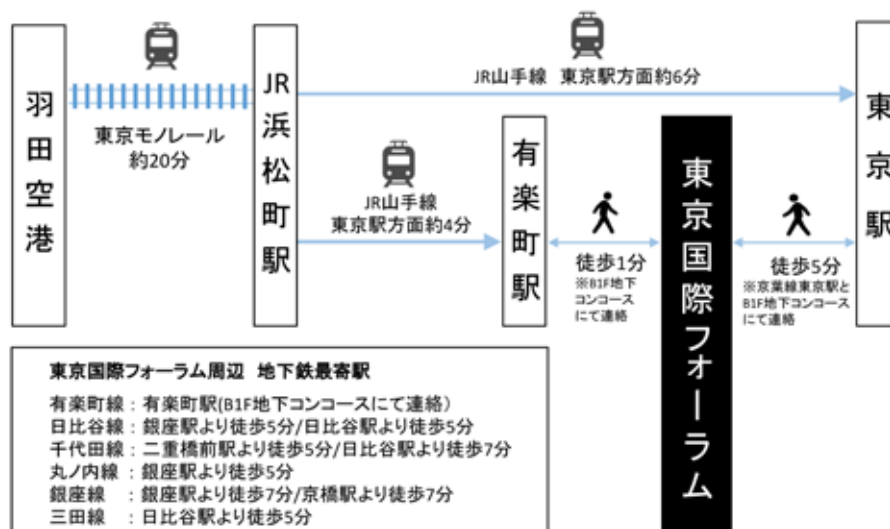
座長の受付は各会場の「座長受付」にて行っております。

座長・司会受付

日 付	場 所
9月22日（金）	ガラス棟地下1階
9月23日（土）	ロビーギャラリー
9月24日（日）	ホールC 1階ロビー

当該セッション開始30分前までに受付をお済ませのうえ、10分前までに次座長席にご着席ください。

***** 会場周辺図と交通アクセス *****



今回は、第51回日本作業療法学会の開催直前ということで、「学会へ参加しました」というテーマで投稿募集を行いました。多くの皆様からお寄せいただいた体験談をここに一挙公開。もちろん、学会への参加は会員の皆様の自由であり、強制するものではありません。「学会に参加したいけれど、難しい」と感じている人にとって、参加を実現するためのヒントや励みになれば嬉しく思います。素敵なエピソードも満載ですので、ぜひご一読ください！

私の体験談

子どもを連れて2人で“学会に参加しました”

工藤 美和（医療法人財団利定会 大久野病院）

子どもが年長になったばかりの5年前の4月、それまで元気だった母が病氣治療のため入院することになりました。その年、宮崎で開催される日本作業療法学会に演者として参加を予定していた私は、母に子どもを預け単身で学会に参加することを決めていたのですが、すぐにそれを止めざるを得ない状況となりました。夫は他業種で不規則勤務者でもあるため、子どもの世話をお願いできるはずもなく、一瞬、学会参加を諦めようかとも思いましたが、学会に託児所があったことを思い出し、意を決して子どもと2人、学会に参加することにしました。

初めての二人旅。しかも九州の宮崎への飛行機の旅！旅支度には念には念を入れたため、とてつもない大荷物となり、ホテルへ事前に送りました。また、旅行中に子どもが飽きないように、当日持っていく鞆の中に学会誌や発表原稿とともに塗り絵やシール等の遊び道具を詰めて行きました。

さて、託児所には演者として参加する日の2時

間ほど預けました。託児所を利用する方は多いのかと思いましたが、利用者は私を含めても2名だったようです。正直なところ託児所の値段は高かったものの、発表前に一人で集中する時間ももてましたし、また発表にも集中して取り組むことができたので利用して本当に良かったと思います。託児所を利用しない間は子どもと一緒に学会に参加して、福祉機器を見たり、演題発表や講演を聴いたりし、2人で楽しみました。空き時間にはお店で宮崎名物を食べたりすることもでき、子どもを連れて来てかえって良かったと思いました。今では私自身にとっても子どもにとっても、とても良い思い出となっています。

子どもがいるからといって学会参加を諦めている方へ。ぜひ子どもさんと一緒に学会に参加してみてください。きっとご自分も子どもさんも生涯に残る素敵な思い出の一つになると思いますよ。

私の体験談

夫・2人の子どもと“学会に参加しました”

坂東 晶世（医療法人若草会 松村病院）

私は、2016年北海道で開催された日本作業療法学会に参加させていただきました。参加理由は、夫が学会で発表できることとなったからです。

この時、私たち夫婦には7歳の娘と5歳の息子がいました。参加要項などを読むと、託児所は設置されていましたが、年齢制限があり、娘は預けることができませんでした。なので、必然的に息子も一

人で預けられることを嫌がりました。夫と2人でどうしようかと迷いましたが、作業療法士として働き、そのうえ、夫の実践してきたことを発表できる場に子どもたちを連れて行かない、行けない理由は、私には一切ありませんでした。

私は、子どもたちに数日前から毎日のように、パパや他の人がお話している部屋ではうさくしない

ように言い聞かせました。夫の発表は2日目だったので、1日目は子どもたちに慣れてもらう目的もあり、私が興味のある演題の会場に入って話を聞くことにしました。子どもたちは退屈ながらも、私に怒られないよう、できるだけおとなしくしてくれていたと思います。その姿を見て、私も何か工夫しないといけないと思いながらも1日目は終了しました。

2日目、ホテルから4人で歩いて学会会場に向かい、ポスター発表も見学し、夫が発表する会場に入りました。この時、3人で座れる長机が設置されており、私が真ん中に座り、左に娘、右に息子を座らせました。これで、私一人でも2人の子どもたちに目を配ることができました。他の演者の方々の発表もあったので、私は学会に参加するにあたり、筆記用具やノート、4色の付箋、形違いの付箋を持って行っていました。娘にはたし算、引き算の問題を書いて渡し、息子には簡単な図形を書いて色塗りをしてもらいました。娘は計算ができると、声ではなく、私の手をトントンと叩いてきました。私は答え合わせをして、娘に返し、間違い直しをしてもらいました。息子は男の子らしさからか雑な塗り方だったので、丁寧に塗ることを小声で伝え実施してもらいました。しかし、この方法では限界がありました。どうしようか迷っていると、娘が「ママ、これ使っていない?」と私に小声で聞いてきたので、見ると、それは付箋でした。それを見ていた息子も「僕も」と小声で言ってきたので、私ももちろん小声で「い

いよ」と答えると、その後は子どもたちは夢中で思い思いのものを作り始めました。娘はウサギ、息子は車を作っていました。この時はかなり静かで、私も演者の方の話をよく聞くことができました。

その後、夫の発表となり、子どもたちに声をかけると、息子は「パパ?」と言いながら手を止め、娘は聞かないといけないことをわかっているかのように、付箋を整理して、姿勢を正していました。普段は私に怒られっぱなしの2人ですが、この時、子どもたちなりに状況を理解していることを痛感しました。夫がどんなことをしているのか、私たちがしている仕事はどんなものなのか、まだ幼い子どもたちにはなかなか理解することはできないけれど、わからないなりにでも聞くこと、見ること、経験することは大事だと思いました。

今回、家族で学会に参加することで、子どもたちの成長を垣間見ることができたこと、少しでも親がしている仕事に触れさせることができたこと、この二つの体験が子ども連れでないと味わえない学会参加の醍醐味かなと実感しました。「子どもがいるから学会に参加しにくい」ではなく、「いずれその子どもたちが作業療法を担っていくかもしれない」と考えれば、少しは参加しやすくなるのかなと思います。また、周囲の学会参加者の方々にはご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。加えて、温かいお声掛け、子どもたちに寛大なご配慮を本当にありがとうございました。

私の体験談

妊娠中に、夫と“学会に参加&発表しました”

渡邊 基子（介護老人保健施設 ゆうゆう）

2012年6月、第一子妊娠中33週目で、茨城県から第46回日本作業療法学会 in 宮崎に参加し、ポスター発表を行った。妊娠中、しかも翌週からは産休入りする時期での学会参加には、多少なりとも不安はあったが、その不安を解消できるよう入念に事前準備を行った。

まず、妊婦はいつまで飛行機に乗れるのか。飛行機で里帰り出産をした友人がいたため、妊婦でも飛行機に乗れることは知っていた。そこで航空会社の

ホームページを確認すると、「出産予定日を含め28日以内に搭乗する時には医師の診断書の提出が必要」と記載されていた。私は28日以上前だったが、念のため、妊婦健診の際に、主治医に飛行機に乗ることについて確認し、口頭で許可を得た。もちろん、無理はしてはいけないとのことであった。学会場や宿泊するホテル周辺にある産婦人科の病院もインターネットで調べておいた。職場からの学会参加者は私1人であり、道中そして学会場で何かあったら

他人にも迷惑がかかると思い、主人にお休みをとって同行してもらうことにした。

ホテルから学会場までは公共交通機関やシャトルバスもあったが、タクシーで移動した。ポスターを掲示する時には、会場でお会いした先生が、主人と一緒に手伝ってくださった。自分のポスター発表以外の時間は、あまり歩き回らず、座って過ごせるよう講演などを聴講した。作業療法とは全く関係のない職業である主人も一般参加者として参加費を払って学会に参加し、私と一緒に過ごした。主人は、ロビーに座り持参したパソコンで自分の仕事をしていることもあったが、私と一緒に講演を聴講することもあった。「作業療法ってこういう仕事なんだね」と私の職業についての理解が深まったようであった。学会中、大きなお腹の私に声をかけてくださる方も多く、参加して良かったと思った。

妊娠中でも学会参加し、自己研鑽を積むことはできると考える。しかし、会場までの移動手段や所要時間など、開催場所は考慮すべき点である。そして何よりも、妊娠週数に応じて様々なりスクが伴う。体調を最優先し、直前でキャンセルすることも考えておかなければならない。私も参加できなくなった時のことを考えて、「知人にポスターのデータをメール添付するので会場で掲示してもらうかもしれない」と依頼はしておいた。

学会に参加したい！という私の想いを、否定せず実現するために協力してくれた家族と周囲の皆様に感謝している。お腹の中にいて一緒に学会参加した息子は、将来作業療法士になるかもしれない。

「十人十色」という言葉があるように、人の価値観は様々である。あくまでも、一つの例として読んでいただければ幸いである。

私の体験談

産後2ヵ月で“学会で発表しました”

形部 麻里（鹿児島第一医療リハビリ専門学校）

この投稿募集を見つけ「あの時はよく学会に参加できたなあ」と夫と話していると、15歳になる娘が「お母さん、書いてよ」と。娘の一押しもあり、投稿を決めた。

就職して4年目、母校のある広島での全国学会で発表するため意気揚々と準備を開始。しかし、演題募集中に妊娠が発覚。学会当日は「産後2ヵ月」。初めての妊娠、初めての出産、初めての全国学会発表、と初めて尽くし。準備はできるのか？当日は行けるのか？育児って？私も夫も実家が遠方のため、親の協力は期待できない。また、職場には出産経験のある作業療法士はおらず、産休育休の交渉もこれからと不確定なことだらけ。

不安ばかり口にする私に夫は「大丈夫、学会の日は仕事を休むから発表したらいいやん」と。気楽な

言葉に背中を押され挑戦することに。スライド準備は職場の同僚に協力してもらい、家族や職場のおかげで無事参加にこぎつけた。学会当日は、夫に子どもを預け、発表時間に合わせ、当時の住まいがあった滋賀から新幹線で広島へ。授乳のため聴講は叶わなかったが、この経験は自信につながった。

そして2人目は妊娠中に学会発表、3人目は子育てをしながら学会参加、と継続してきた。そんな3人の子どもたちは、中3・小6・小5と成長。家族に負担をかけて学会参加しているのでは？と負い目を感じることもあったが、娘の「書いてよ」の一言で、母を肯定してくれていることがわかり、嬉しい気づきだった。家族がいるからがんばれる、家族のために成長する。子どもにとって誇りに思える母親であるために、これからも学会に参加していこう。

妊娠中、育児中に“学会に参加&発表しました”

華井 明子（京都大学大学院医学研究科）

現在1歳の娘がいます。妊娠中にも育児中にも学会（日本作業療法学会・国内外の学会）に参加したため、今後そのような作業療法士さんの後押しになればと思い投稿いたします。

○妊娠中

妊娠5ヵ月、つわりがひどく何か食べていないと嘔気がこみ上げてくる状況でした。スライドは万一吐き気で話せなくなった時のことを考え、「こちらをご参照ください」と言えばわかるように体裁を整えておきました。パソコンのディスプレイをスクロールすると吐いてしまう状況だったため、スライドは紙にプリントアウトしながらチェックし、パソコンを開く時間を最小限に留めて編集しました。また、iPadの音声入力機能を使って読み原稿を作成しました。学会の会場のトイレと飲食可能な場所、自動販売機の場所はあらかじめ確認しておきました。

学会当日は、いつでも飲めるバナナ味のゼリー飲料とスポーツドリンク、飴、クッキーを持参しました。いつもの癖で階段を使ったところ、妊娠を知る方から「エレベーターを使ったほうがいいわよ」と声をかけられ、「なるべく楽するようにしていいんだ」とほっとしたことを覚えています。

小さな会場の熱のこもった空気で気持ち悪くなってしまい、メイン会場の一番後ろで倒れるように座って他の先生方の発表を聞きながら、チェックしておくべきこととして「空気の良い場所」も追加しておくべきだった！と後から思いました。

自身の発表前に一度質問をしたところ、立って話

し始めた時点で普段経験したことがないようなめまいがあり、足ががくがく震え、冷や汗がどっと出てきました。これはまずい、と思い、発表前に飴を口に入れ、発表は周囲にはわかりにくいように演台にもたれながら行いました。発表中は頭が真っ白になりながらも無事に終えることができ、事前に質問したことで、発表中に具合が悪くならないよう対策が講じられてよかった、と思いました。

○育児中

娘が1ヵ月のときに、米国の学会に共著者の先生に代理で出ていただきました。事前準備としては業者に英文校正を依頼しましたが、実際学会が近づくことになり、産後頭が働かないなかで、メール返信に困った際に英文校正担当者の方に英語を相談するなどお世話になりました。

また、国内学会の発表も行いました。まだ大人しく抱っこされている月齢だったので、会場でおむつ交換台のあるトイレと授乳可能な場所を確認し、ポスター発表等は抱っこして見学することができました。まだ授乳のペースが安定せず染みてしまうことがあるので、スーツのジャケットは発表の時のみ羽織り、汚れても洗やすいシャツを着ていきました。迷惑をかけるのではないかと心配でしたが、そこはさすが医療従事者、参加された作業療法士の方々に声をかけていただいたり、記念写真を撮っていただいたり、とても温かい気持ちになりました。

協会設立50周年 関連事業～各士会の取り組み

もっと作業療法を知って活用していただく契機に！



福井県

内容

- ①市民公開講座の開催
- ②記念品の作成と配布
- ③日本作業療法士協会 50 周年史 (DVD) の上映、パネルの展示
- ④作業療法周知ポスターの展示



3月4日、第5回福井県作業療学会の一環として協会設立50周年関連事業を開催しました。市民公開講座では、大田仁史先生（茨城県立健康プラザ管理者）に、体操などのパフォーマンスを交えながら介護予防についてご講演いただきました。介護予防・日常生活支援総合事業の開始前という時期も手伝って、市民のほか、行政や地域包括支援センターの職員、介護予防に関わる他職種の方々も来場くださり、好評をいただ



会場ロビーの風景
ロゴ・文字入りの記念品を配布

きました。併せて、協会 50 周年史 (DVD) の上映やパネルの展示、作業療法周知ポスターの掲示を行い、協会の歴史や活動、作業療法について、会員を含め大勢の方々に知っていただく良い機会になりました。また、来場者には、協会設立 50 周年のロゴや文字を入れた便利な用具を記念品として配布しました。家庭や職場などで作業療法が話題に上がればと思います。これを機に、さらに作業療法が認知され、様々な場面で活用されることを願うと同時に、その要望にしっかりと応えられる作業療法士が、協会や県士会とともに育っていくことを期待したいと思います。



市民公開講座の風景
皆で体操実践中！



市民公開講座のポスター



大田仁史先生の笑顔とともに記念撮影

奈良県

「まいにち作業療法」 啓発カレンダー作成と作業療法の日を開催

内容 グッズの作成、イベントの主催

奈良県は、山に囲まれた海のない盆地の県で、南の約半分は森に囲まれて人口のほとんどが北部に住んでいます。奈良県作業療法士会は会員数 430 名、北和・中和・南和と 3 ブロックに分かれて活動しています。当会では、日本作業療法士協会 50 周年記念事業として日めくりカレンダーの「まいにち作業療法」を作成しました（図 1）。カレンダーは 31 日で構成され、1 日目は「人は作業することで健康になれる」から始まり、31 日目は「これからもあなたとともに作業療法」で終わります。

イベント「作業療法の日」を開催

平成 29 年 6 月 11 日に奈良県作業療法の日を開催しました。来場者数は、一般 87 名と県士会員 92 名の合計 179 名で盛会となりました。

本企画では、①作業療法士と当事者との繋がり、②作業療法士と学生との繋がり、③作業療法士と一般市民との繋がり、の 3 点を深めることを目的とし、① OTED NARA（当事者の講演）、②作品展示、③交流会を実施しました（図 2～4）。

本企画に参加しアンケートを記載すれば、日めくりカレンダーの「まいにち作業療法」がもらえるという仕組みにしたため、アンケート回収率は、ほぼ 100% を達成することができました。おそらく皆がほしくなる魅力的なカレンダーであったのだと自負しています。

得られたアンケートからは、作業療法士への激励の声や、地域の現場での活躍を切望する声が聞け、奈良県作業療法士会に大きな期待をされていることを実感しました。今後は、この期待に応え、「これからもあなたと共に 作業療法」を実現すべく活動を展開していきたいと思います。



図 1 日めくりカレンダー「まいにち作業療法」



図 2 OTED NARA



図 3 作品展示



図 4 交流会

高知県

高知県作業療法士会の取り組み

内容 作業療法広報イベント「やりゆうぞね作業療法!!」開催

高知県作業療法士会では、2017年1月9日の成人の日に、作業療法の啓発を目的として「やりゆうぞね作業療法!!」を開催しました（図1）。「作業があれば元気になれる」をキャッチフレーズに、県内の作業療法士から日々の活動や取り組みを写真やスライドで募集し、集まったものをパネル展示しました。また、作業療法（士）紹介PVの上映やスタンプラリー、小学生までを対象としたストラックアウト大会、応援に駆けつけてくれた着ぐるみの中岡慎太郎と岩崎弥太郎、芸人のピ〇太郎らしき「太郎トリオ」によるパフォーマンスおよび写真撮影会も行われました（図2）。

パネル展示の分野や活動のジャンルが様々であったことや、今回のイベントが高知家健康パスポート（高知県が行う健康づくりのための事業）のスタンプ対象

イベントとなったこともあり、一般の方々から当事者の方々まで予想を大きく上回るたくさんの参加をいただくことができました。また、来場者の方々には、より身近に作業療法を感じていただけるよう、啓発グッズの配布も行いました（図3）。

協会設立50周年の節目に、県内の作業療法士が実際に現場で取り組んでいることを互いに知る機会が持てたこと、またそれを多くの方々に発信できたことは、より具体的な作業療法の理解につながる貴重な時間になったと感じています。

これからの時代の中で、さらに私たちがそれぞれの地域で役割を担い、貢献できる存在でいられるよう、土佐の先人のように志とつながりを大切にして、今後も取り組んでいきたいと思います。



図1 イベントの様子



図2 太郎トリオ



図3 配布グッズ

催物・企画案内

『第10回 介助技術講習会』

日 時：2017. 9/9 (土)
会 場：水俣病情報センター
お問合せ：国立水俣病総合研究センター（担当：中村篤）
TEL. 0966-63-1111
E メール reha@nimd.go.jp
お申込み：詳細は、下記 URL をご覧ください。
<http://www.nimd.go.jp/>
参 加 費：無料
主 催：環境省 国立水俣病総合研究センター

第5回 全国介護・終末期リハ・ケア研究会 研究大会

日 時：2017. 9/16 (土) 17:30 ~ 18:30
2017. 9/17 (日) 10:00 ~ 16:30
会 場：愛知大学名古屋キャンパス
講義棟 11 階 1103 教室
お問合せ：医療法人瑞心会 渡辺病院 リハビリテーション科（担当：壹岐 英正）
TEL. 0569-87-2111 FAX. 0569-87-2119
E メール info@n-cerc.org
お申込み：詳細は、下記 URL をご覧ください。
<http://n-cerc.org/>
主 催：全国介護・週末期リハ・ケア研究会

がんのリハビリテーション研修会

日 時：① 2017. 9/17 (日)・18 (月・祝)
② 2018. 1/6 (土)・7 (日)
会 場：① 麻生リハビリテーション大学校
② 神戸大学医学部附属病院
お申込み：詳細は、下記 URL をご覧ください。
<http://www.japanpt.or.jp/>
参 加 費：1 施設 6 名の場合 129,600 円
1 施設 5 名の場合 108,000 円
1 施設 4 名の場合 86,400 円
主 催：公益社団法人 日本理学療法士協会

第57回 全国国保地域医療学会

日 時：2017. 9/20 (水)・21 (木)
会 場：ホテルメルパルク東京 メルパルクホール
お問合せ：公益社団法人 全国国民健康保険診療施設協議会
TEL. 03-6809-2466 FAX. 03-6809-2499
E メール 57gakkai@kokushinkyo.or.jp
お申込み：詳細は、下記 URL をご覧ください。
<https://confit.atlas.jp/guide/event/kokuho57/top?lang=ja>
主 催：公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会

第18回介護保険推進全国サミット in いわぬま

日 時：2017. 10/5 (木)・6 (金)
会 場：岩沼市民会館、岩沼市総合体育館
主 催：岩沼市
お問合せ：岩沼市健康福祉部介護福祉課
TEL. 0223-24-3016 FAX. 0223-24-3087

第23回 全国の集い in はちのへ 2017

日 時：2017. 10/8 (日)・9 (月・祝)
会 場：八戸市公会堂・八戸市公民館・八戸市文化教養センター南部会館・八戸商工会館・八戸ポータルミュージアムはっち
お申込み：詳細は、下記 URL をご覧ください。
<http://tsudoi2017.com/index.html>
主 催：NPO 法人 在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワーク

第33回日本義肢装具学会学術大会

日 時：2017. 10/8 (日)・9 (月)
会 場：TFT ビル・ホール（東京都）
お申込み：詳細は、下記 URL をご覧ください。
<http://convention.jtbcom.co.jp/jspo33/index.html>
主 催：一般社団法人 日本義肢装具学会

第6回日本精神科医学会学術大会

日 時：2017. 10/12 (木)・13 (金)
会 場：広島国際会議場（平和記念公園内）
お問合せ：日本精神科病院協会 岡山県支部
慈恵病院内
日本精神科病院協会 広島県支部
松田病院内
お申込み：詳細は、下記 URL をご覧ください。
<http://www.convention-w.jp/japh6/index.html>
主 催：公益社団法人 日本精神科病院協会

「催物・企画案内」の申込先 kikanshi@jaot.or.jp

掲載の可、不可についてはご連絡致しませんことをご理解ください。また、2号以上の掲載はお引き受けいたしかねます。なお、原稿によっては割愛させていただきます場合がございますので、ご了承ください。

作業療法全国研修会（滋賀会場）のご案内

本年度の全国研修会も“明日から使える知識・技術”の提案としてプログラムを構成しました。

身体障害、老年期、発達障害、精神障害と各領域における講座を充実させ、作業療法の基本や応用を確認できる内容です。また、公開講座では、作業療法の知見を盛り込んだ「生活動作と遊びのアイデア集」を活用した鹿児島県士会の取り組みと、模擬的に「地域ケア会議」を実践し、作業療法士の役割を考える2つの講座を予定しています。作業療法士一人ひとりが「地域につながる」という役割を担い、日頃抱えている疑問や課題を分かち合う機会となり、専門性の発揮を促進する機会となると確信しています。

是非とも万障お繰り合わせのうえ、ご参加いただきたくご案内申し上げます。

テーマ 地域につながる作業療法の理論と実践

会期 2017年10月7日(土)～8日(日)＜2日間＞

会場 ピアザ淡海（滋賀県大津におの浜1丁目1-20）

参加費 正会員事前登録 10,000円（正会員の当日参加登録は 12,000円）

非会員 20,000円、他職種 5,000円、学生 1,000円、一般無料（公開講座のみ）

*参加費の振込手数料はご自身でご負担ください。

*一度お振り込みいただきました参加費は返金できません。ご了承ください。

*協会員は一般参加枠での公開講座の聴講はできません。

*1日のみの参加の場合も同額になります。

主催 一般社団法人 日本作業療法士協会 運営協力：一般社団法人 滋賀県作業療法士会

運営事務局 東武トップツアーズ株式会社 東京法人事業部

【交流会のご案内】

研修会1日目終了後に交流会を行います。講師の先生方や参加者の皆様と楽しく交流会ができればと思います。是非ご参加ください。

開催日 2017年10月7日(土) **開催場所** びわ湖大津プリンスホテル

参加費 5,000円程度

【宿泊の手配】

宿泊は各個人で手配してください。同日、大津祭が開催されるため、宿泊施設の混雑が予想されます。宿泊予定の方は早目の手配をお勧めします。

【申込方法】

＜事前登録＞登録期間：2017年7月20日(木) 正午～2017年9月15日(金) 正午

協会ホームページ全国研修会バナーの専用申込みフォームから参加登録を行ってください。登録は画面上の案内に沿ってお願いいたします。参加登録後、指定の口座まで参加費の入金をして頂き、事務局での入金確認（入金から10日程お時間がかかります）がとれましたら、参加証引換券が登録のメールアドレスへ送信されます。参加証引換券は当日、必ず持参ください。

参加登録は、協会ホームページの全国研修会バナーから!!

＜当日受付＞

正会員の方は、2017年度バーコード付き会員証（または2017年度会費振込の受領証）をご持参のうえ、当日直接会場までお越しください。

【事前登録に関する問い合わせ】

作業療法全国研修会（教育部研修運営委員会）E-mail: zenken@jaot.or.jp

**参加登録
を開始しました!!**

登録期日

2017年9月15日(金) 正午まで

参加登録は、
協会ホームページの
全国研修会バナーから!!



≪ 第 60 回 作業療法全国研修会（滋賀）プログラム ≫

※テーマ及び講師は予定です

テーマ 地域につながる作業療法の理論と実践

10月7日（土）		第 1 ホール	第 2 ホール	第 3 ホール	第 4 ホール
1 日 目	9：45～	開会式			
	10：00～11：20	協会指定講座 1 官公庁講演 「地域につながる作業療法の理論と実践～地域包括ケアシステム構築に向けた、地域につなげる作業療法士への期待～」 小林 毅（厚生労働省老健局高齢者支援課）			
	11：30～12：30	公開講座：鹿児島県作業療法士会の取り組み 「児童発達支援における作業療法士の視点、地域と繋がる役割～アイデア集作成とその活用を通して～」 井上 和博（鹿児島大学）			
	12：30～13：30	昼休み			
	13：30～14：30	「脊髄損傷者に対する活動参加へのアプローチ～2020 東京パラリンピックを目指す車椅子テニス少女の OT 展開～」 松本 琢磨（神奈川リハビリテーション病院）	「“家に帰りたい”の真意～ナラティブから読み解くその人らしさとは～」 上田 章弘（介護老人保健施設恵泉）	「子どもの家族の思いをくみながらの支援～発達障害領域における MTDLP 実践から～」 平野 大輔（国際医療福祉大学）	「精神障害領域における MTDLP の実践」 島田 岳（医療法人清泰会メンタルサポート そよかぜ病院）
	14：40～15：40	「脳卒中患者の生活支援～障害の捉え方と介入方法～」 佐尾 健太郎（山梨リハビリテーション病院）	「高齢者の下部尿路機能障害（排尿障害）に対する評価とアプローチ～排尿自立支援・転倒予防を目的として～」 太田 有美（大分リハビリテーション病院）	「児童の特性に応じた教育支援に必要な作業療法士の視点～学習と生活のマネジメント～」 辻 薫（大阪発達総合療育センター）	「地域生活支援の理解と支援のポイント」 鶴見 隆彦（湘南医療大学）
	15：50～16：50	「安全な交通社会に貢献する作業療法士の役割」 藤田 佳男（千葉県立保健医療大学）	「医療機関や高齢者施設におけるシーティング介入と作業療法士の視点が果たす意義」 岩谷 清一（永生病院）	「発達領域における用具の適合と環境調整～居宅での活用を中心に～」 田中 勇次郎（東京 YMCA 医療福祉専門学校）	「多様な生き方に対応する作業療法の可能性」 遠藤 真史（那須フロンティア地域生活支援センターゆずり葉）
	17：00～18：00	協会指定講座 2 協会長講演 「地域につながる作業療法の理論と実践」 中村 春基（日本作業療法士協会 会長）			
19：00～	交流会				
10月8日（日）		第 1 ホール	第 2 ホール	第 3 ホール	第 4 ホール
2 日 目	9：00～10：00	「神経難病患者の活動と参加に求められる作業療法士の視点～実践を通して～」 楠原 敦子（国立病院機構 高松医療センター）	「予防的・健康増進作業療法プログラム「65 歳大学」の概要と実践紹介」 小林 法一（首都大学東京）	「子どもとの遊びにおける therapeutic use of self」 土田 玲子（NPO 法人 なごみの杜）	「精神障害領域における作業を用いた就労支援の実践例」 芳賀 大輔（NPO 法人日本学び協会ワンモア）
	10：10～11：10	「作業療法の魅力～その人らしい生活を支える技能とは～」 杉原 素子（国際医療福祉大学）	「認知症に対する治療的介入～デイケアをとおして～」 廣澤 美佐子（三原デイケアクリニック リぼん・リぼん）	「乳児期から小学校時期までの、発達障害や運動障害がある子どもたちへ幼稚園・保育園、小学校やその他の地域資源に参加するための作業療法支援の実践」 松本 政悦（よこはま港南地域療育センター）	「作業療法再考～therapeutic use of self と見える化～」 富岡 詔子（岡田公民館）
	11：20～12：20	協会指定講座 3 公開講座：模擬地域ケア会議 「地域ケア会議における作業療法士の役割」 佐藤 孝臣（株式会社ライフリー）			
	12：30～	閉会式			

※ 主催者及び講師の都合により、講演日程、内容等を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

※ 主催者及び講師の都合により、講演日程、内容等を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。



2017年度 協会主催研修会案内

認定作業療法士取得研修 共通研修			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定 員
管理運営③	2017年8月21日～8月22日	大 阪：大阪市 新大阪丸ビル 新館	45名
管理運営④	2017年9月30日～10月1日	北海道：札幌市内 調整中	45名
管理運営⑤	2017年10月28日～10月29日	大 阪：大阪市 新大阪丸ビル 新館	45名
管理運営⑥	2017年11月25日～11月26日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	45名
管理運営⑦	2017年12月23日～12月24日	大 阪：大阪市 新大阪丸ビル 新館	45名
管理運営⑧	2018年1月27日～1月28日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	45名
教育法③	2017年8月25日～8月26日	大 阪：大阪市 新大阪丸ビル 新館	45名
教育法④	2017年8月26日～8月27日	大 阪：大阪市 新大阪丸ビル 新館	45名
教育法⑤	2017年10月7日～10月8日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	45名
教育法⑥	2017年11月11日～11月12日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	45名
教育法⑦	2017年12月2日～12月3日	宮 城：仙台市 東北保健医療専門学校	45名
教育法⑧	2018年1月6日～1月7日	福 岡：福岡市 天神チクモクビル	45名
研究法③	2017年8月23日～8月24日	大 阪：大阪市 新大阪丸ビル 新館	40名
研究法④	2017年9月16日～9月17日	静 岡：静岡市 CSA貸会議室	40名
研究法⑤	2017年10月14日～10月15日	新 潟：三条市 燕三条地場産業振興センター	40名
研究法⑥	2017年12月9日～12月10日	大 阪：大阪市 新大阪丸ビル 新館	40名
研究法⑦	2018年1月13日～1月14日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名

認定作業療法士取得研修 選択研修			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定 員
選択-11 身体障害の作業療法	2017年8月19日～8月20日	高 知：高知県内 土佐リハビリテーションカレッジ	40名
選択-12 身体障害の作業療法	2017年8月26日～8月27日	香 川：高松市 かがわ総合リハビリテーションセンター福祉センター	40名
選択-13 身体障害の作業療法	2017年9月2日～9月3日	徳 島：徳島市 あわぎんホール	40名
選択-14 身体障害の作業療法	2017年9月2日～9月3日	広 島：広島市 広島大学 霞キャンパス	40名
選択-15 精神障害の作業療法	2017年9月9日～9月10日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	30名
選択-16 身体障害の作業療法	2017年11月11日～11月12日	愛 知：名古屋市 名古屋医健スポーツ専門学校 第2校舎	40名
選択-17 老年期障害の作業療法	2017年11月11日～11月12日	東 京：荒川区 首都大学東京 ※変更の可能性あり	40名
選択-18 発達障害の作業療法	2017年12月2日～12月3日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	30名
選択-19 精神障害の作業療法	2017年12月9日～12月10日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	30名
選択-20 老年期障害の作業療法	2017年12月16日～12月17日	千 葉：木更津市 君津中央病院	40名
選択-21 身体障害の作業療法	2017年11月4日～11月5日	福 岡：福岡市内 調整中	40名
選択-22 身体障害の作業療法	2017年10月28日～10月29日	鹿児島：鹿児島市 鹿児島大学	40名
選択-23 身体障害の作業療法	調整中	調整中：調整中 調整中	40名

専門作業療法士取得研修				
講座名		日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定 員
高次脳機能障害	基礎Ⅰ	2017年9月23日～9月24日	福 岡：福岡市 リファレンス駅東ビル	40名
	基礎Ⅲ	2017年12月9日～12月10日	宮 城：仙台市 PARM-CITY131貸 会議室	40名
	基礎Ⅳ	2017年12月2日～12月3日	大 阪：大阪市 CIVI研修センター新大阪東	40名
	応用Ⅰ	2018年2月17日～2月18日	京 都：調整中 調整中	40名
精神科急性期	基礎Ⅱ	2017年8月26日～8月27日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名
	応用Ⅰ	2017年10月21日～10月22日	大 阪：豊中市 ワンモア豊中	40名
摂食嚥下	基礎Ⅳ	2017年10月7日～10月8日	大 阪：大阪市 新大阪丸ビル 新館	40名
	応用Ⅱ	2018年1月20日～1月21日	東 京：豊島区 日本リハビリテーション専門学校	40名
手外科	詳細は日本ハンドセラピ学会のホームページをご覧ください。			40名
特別支援教育	基礎Ⅰ-1	2018年2月24日～2月25日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名
	基礎Ⅱ-2	2018年1月27日～1月28日	大 阪：大阪市 新大阪丸ビル新館	40名
認知症	基礎Ⅱ	2017年10月28日～10月29日	沖 縄：那覇市 天久台病院	40名
	基礎Ⅳ	2017年9月30日～10月1日	北海道：千歳市 調整中	50名
	応用Ⅴ	調整中	調整中：調整中 調整中	40名
	応用Ⅵ			
福祉用具	基礎Ⅴ	2018年1月27日～1月28日	愛 知：名古屋市 名古屋医健スポーツ専門学校 第2校舎	40名
	応用Ⅴ	2017年10月28日又は10月29日	石 川：金沢市内 調整中	40名
		2018年1月6日 又は1月7日		
	応用Ⅶ	2017年10月28日又は10月29日 2018年1月6日 又は1月7日	石 川：調整中 調整中	40名
訪問作業療法	基礎Ⅲ	2017年10月28日～10月29日	東 京：調整中 調整中	40名
がん	基礎Ⅰ	調整中	調整中：調整中 調整中	40名
	基礎Ⅱ	調整中	調整中：調整中 調整中	40名
新規分野(予定)		調整中	調整中：調整中 調整中	40名

作業療法重点課題研修				
講座名		日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定 員
高齢者・脳卒中者の実用的ADL向上に向けた 排尿障害の評価と対応		2017年8月26日～8月27日	東 京：港区 国際医療福祉大学 東京青山キャンパス	40名
国際学会でのスライド・ポスター発表 準備 セミナー		2017年9月30日	東 京：大田区 東京工科大学医療保健学部	40名
就労支援に作業療法の専門性を活かす！ スキルアップ編		2017年10月14日～10月15日	静 岡：静岡市 ふしみやビル会議室	60名
発達性読み書き障害(ディスレクシア)児に 対する作業療法		2017年10月14日～10月15日	静 岡：静岡市 ふしみやビル会議室	60名
依存症に対するこれからの作業療法		2017年12月9日～12月10日	兵 庫：神戸市 兵庫県立福祉のまちづくり研究所	40名
リハビリテーションマネジメントと 多職種連携		2018年1月13日～1月14日	兵 庫：神戸市 兵庫県立福祉のまちづくり研究所	60名
平成30年度診療報酬・介護報酬情報等に関する 作業療法研修会		調整中(2018年3月予定)	東 京：調整中 調整中	60名

がんのリハビリテーション研修会			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定 員
がんのリハビリテーション研修会	2017年11月4日～11月5日	宮 城：仙台市 東北文化学園大学	144名
がんのリハビリテーション研修会	2018年1月27日～1月28日	大 阪：大阪市 森ノ宮医療大学	144名

臨床実習指導者研修			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定 員
臨床実習指導者研修 中級・上級	2017年11月25日～11月26日	大 阪：大阪市 新大阪丸ビル別館	50名

作業療法全国研修会			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定 員
第60回作業療法全国研修会	2017年10月7日～10月8日	滋 賀：大津市 ピアザ淡海	500名程度
第61回作業療法全国研修会	2017年12月9日～12月10日	新 潟：新潟市 朱鷺メッセ	500名程度

生活行為向上プロジェクト研修			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定 員
生活行為向上マネジメント指導者研修	2018年1月20日～1月21日	大 阪：大阪市 新大阪丸ビル 新館	80名
生活行為向上マネジメント教員研修	2017年8月20日	神奈川：横浜市 横浜リハビリテーション専門学校	60名

認定作業療法士研修			
講座名	日 程(予定も含む)	開催地(予定も含む)	定 員
認定作業療法士研修会	2018年2月3日～2月4日	東 京：台東区 日本作業療法士協会事務局	40名



医療福祉の専門大学の講師陣

ポイント凝縮!

介護福祉士国試集中講座 7月開講

合格のために押さえておきたいポイントをギュッと集めました。独学で学習した事の確認や総仕上げにも最適です。[試験の要点を凝縮して解説(約2時間)]
学習環境は、動画配信(パソコン、スマートフォン、タブレットなど対応)でのご視聴、DVDでのご視聴、どちらかお選びいただけます。

▶ 動画配信料金: 4000円(税込) / DVD料金: 4500円(税・送料込)

※内容は変更になることがあります。

医療・福祉の動画配信サイト

医療福祉 **e**チャンネル



0120-870-774 (前9:00～後5:00/土・日・祝を除く)

E-mail: info@iryofukushi.com URL: <http://www.ch774.com>



生涯教育講座案内【都道府県作業療法士会】

現職者選択研修						
老年期障害	2017年8月20日	香川県	四国医療専門学校	4,000円	50名	香川県作業療法士会ホームページ
発達障害	2017年8月20日	香川県	四国医療専門学校	4,000円	20名	香川県作業療法士会ホームページ
精神障害	2017年8月20日	長野県	信州大学医学部保健学科北校舎311教室	4,000円	100名	詳細：(一社)長野県作業療法士会ホームページ 問合せ先：相澤病院 古川 正樹 Tel 0263-33-8600
身体障害	2017年9月3日	京都府	佛教大学 二条キャンパス	4,000円	100名	詳細が決まり次第、京都府作業療法士会ホームページに掲載されます。 問合せ先：洛和会音羽リハビリテーション病院 難波 忠明 Tel 075-581-6221
精神障害	2017年9月3日	栃木県	鹿沼市民 情報センター	4,000円	45名	詳細：栃木県作業療法士会ホームページ 問合せ先：室井病院 和田多 優也 Tel 0287-23-6622 E-mail : gensyoku@tochi-ot.com
老年期障害	2017年10月1日	秋田県	秋田大学医学部 保健学科	4,000円	50名	詳細が決まり次第、秋田県作業療法士会ホームページにアップします。 問合せ先：秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 川野辺 稔 E-mail : kawanobe-minoru@akita-rehacen.jp
身体障害	2017年10月1日	青森県	弘前市総合学習センター 第2・3研修室	4,000円	30名	詳細：青森県作業療法士会ホームページ 問合せ先：東北メディカル学院 作業療法学科 中居 真紀子 Tel 0178-61-0606
発達障害	2017年10月1日	熊本県	熊本保健科学大学	4,000円	100名	詳細が決まり次第、熊本県作業療法士会ホームページにアップします。
老年期障害	2017年10月7日	兵庫県	兵庫県民会館	4,000円	50名	詳細が決まり次第、兵庫県作業療法士会ホームページにアップします。
* 身体障害	2017年10月14日	東京都	順天堂大学医学部 附属順天堂医院	4,000円	60名	詳細は東京都作業療法士会ホームページをご参照ください。
身体障害	2017年11月5日	福岡県	聖マリア学園大学 (福岡県久留米市)	4,000円	150名	久留米大学病院 原野 裕司 E-mail: harano@kurc.jp 詳細は、福岡県作業療法協会ホームページに近日中にアップ予定です。
* 老年期障害	2017年11月12日	山梨県	山梨県立青少年 センター	4,000円	50名	詳細が決まり次第、山梨県作業療法士会ホームページにアップします。 問合せ先：健康科学大学リハビリテーションクリニック 作業療法 中澤 良明 Tel 0555-73-2800
* 発達障害	2017年11月12日	群馬県	群馬医療福祉大学 プラザ元気21 キャンパス	4,000円	100名	詳細が決まり次第、群馬県作業療法士会ホームページにアップします。 問合せ先：群馬リハビリテーション病院 水上 将来 E-mail: m-mizukami@reha.gunma.jp
精神障害	2017年11月26日	奈良県	秋津鴻池病院 研修棟	4,000円	80名	詳細：(一社)奈良県作業療法士会ホームページ 問合せ先：秋津鴻池病院 リハビリテーション部 木納(きのう) 潤一 Tel 0745-63-0601
身体障害	2017年12月3日	熊本県	熊本県熊本市市内 予定	4,000円	100名	詳細が決まり次第、熊本県作業療法士会ホームページにアップします。
精神障害	2017年12月3日	福井県	福井赤十字病院	4,000円	50名	詳細が決まり次第、福井県作業療法士会ホームページにアップします。
発達障害	2018年2月4日	佐賀県	佐賀県武雄市内予定	4,000円	50名	詳細が決まり次第、佐賀県作業療法士会ホームページにアップします。

*は新規掲載分です。

生涯教育制度に関する重要なお知らせ

2017 年度 専門作業療法士および 認定作業療法士の資格認定について

教育部 生涯教育委員会 / 教育関連審査委員会

2017 年度の専門作業療法士資格認定審査および認定作業療法士資格再認定審査を、次の要領にて実施いたします。該当される会員の方は、準備ならびに必要な手続きをお願いいたします。詳細は、協会ホームページを参照ください。

2017 年度 専門作業療法士 資格認定審査のお知らせ
申請資格
各分野において取得の要件（読み替えによる要件を含む）を満たし、次の各項の条件を満たす会員である。 ①作業療法士免許を有すること。 ②当該年度の年会費を納めていること。 ③認定作業療法士であること。
申請の流れ
1. 協会ホームページより、「2017 年度専門作業療法士資格認定審査申請書」をダウンロードし、必要事項を記入する。また、写真を貼付する。 ↓ 2. 添付書類等を準備する。 【添付書類】各分野の手引きにある読み替え申請に必要な書類を用意する。 ①作業療法士免許証の写し、②当該年度の会員証の写し、③認定作業療法士認定証の写し（有効期限をご確認ください）、④生涯教育受講記録、⑤専門作業療法士研修生涯教育受講記録、⑥所属士会の会員歴証明書、⑦分野別申請書類一式、⑧読み替え申請書、⑨審査料（5,000 円）の振込済み証明書の写し * 振込先 郵便振替口座：00120-7-146118 生涯教育講座 ↓ 3. <u>2017 年 9 月 1 日（金）～10 月 31 日（火）（当日消印有効）</u>までの期間に、上記申請に添付書類等を添えて、協会事務局へ郵送する（レターパックプラス 510 を推奨）。
専門作業療法士取得試験資格者の決定について
1. 教育審査委員会にて、11 月中に申請に必要な書類の確認を致します。 ※申請書類の内容で確認が必要な場合は個別にご連絡をし、指定する期日までに書類の再提出をお願いすることがあります。 2. 専門作業療法士資格取得試験の資格を満たす該当者には、1 月中に受験票を発行します。
試験審査概要
1) 日 時：2018 年 2 月 11 日（日・祝日） 12：00～14：00（11：00 開場） 2) 会 場：日本作業療法士協会事務局（予定） 3) 審査料：5,000 円（申請時に振込【振込先】郵便振替口座：00120-7-146118 生涯教育講座） 4) 方 法：筆記試験（四肢択一）120 分 5) 当日持参するもの：受験票、時計、筆記用具 （※運転免許証等、本人を確認できるものを持参ください。確認する場合があります） ※該当する専門作業療法士資格既取得者には個別にご案内いたします。

ご注意！専門作業療法士 読み替えによる取得の申請に関して

専門作業療法士 精神科急性期分野の読み替え申請は、今年度が最後です。読み替え要件を満たす会員の方は、必ず申請いただきますようお願いいたします。詳細は、協会ホームページの「専門作業療法士取得の手引き」をご確認ください。

2017 年度 認定作業療法士 資格再認定審査のお知らせ

★ ATTENTION

次年度以降の認定作業療法士資格再認定審査（試験）の実施は未定です。
受験を検討されている方は、今年度受験してください。

申請資格

- 1) 2017 年度認定作業療法士資格再認定審査を受験できる会員とは、認定作業療法士の有効期限を失効した会員である。ただし、有効期限が 2015 年 12 月 31 日 までであった会員である。また、次の各項の条件を満たす会員である。
 - ①作業療法士免許を有すること。
 - ②当該年度の年会費を納めていること。
 （注意：更新の猶予期限（2 年）内にいる方は受験できません）

申請の流れ

1. 協会ホームページより、「2017 年度認定作業療法士資格再認定審査申請書」をダウンロードし、必要事項を記入する。また、写真を貼付する。
 ↓
2. 添付書類等を準備する。
 【添付書類】①会員証の写し、②所属士会の会員歴証明書、③認定作業療法士の認定証の写し、④審査料（2 万円）振込済み証明書の写し
 ↓
3. 2017 年 11 月 1 日（水）～12 月 10 日（日）（当日消印有効） までの期間に、上記申請に添付書類等を添えて、協会事務局へ郵送する。

審査概要

- 1) 日 時：2018 年 2 月 11 日（日・祝日） 12：00～14：00（11：00 開場）
- 2) 会 場：日本作業療法士協会事務局（予定）
- 3) 審査料：2 万円（申請時に振込【振込先】郵便振替口座：00120-7-146118 生涯教育講座）
- 4) 方 法：筆記試験（四肢択一）120 分
- 5) 当日持参するもの：受験票、時計、筆記用具
 （※運転免許証等、本人を確認できるものを持参ください。確認する場合があります）
 ※該当する会員への個別の案内はいたしません。



協会刊行物・配布資料一覧

資料名	略称	価 格
パンフレット 一般向け協会パンフレット (INFORMATION BOOK 1)	パンフ一般	無料 (送料負担) ※ただし、1年につき50部を超える場合は、有料。
一般向け協会パンフレット (INFORMATION BOOK 1) 英語版	パンフ英文	
学生向け協会パンフレット (INFORMATION BOOK 2)	パンフ学生	
作業療養は呼吸器疾患患者さんの生活の質の向上を支援します	パンフ呼吸器	
入会案内	パンフ入会	
協会広報誌 Opera21	オペラ 21	
ポストカード ポストカード第1集 ポスター編 (7枚セット)	ポストカード①	300 円
広報 DVD 身体障害者に対する作業療法	広報 DVD 身体	各 4,000 円
精神障害に対する作業療法	広報 DVD 精神	
Asian Journal of Occupational Therapy (英文機関誌) Vol.1、2、3、4	AJOT1-1、2、3、4	各 500 円
作業療養事例報告集 Vol.1 2007 Vol.2 2008 Vol.3 2009 Vol.4 2010	事例集 1、2、3、4	各 1,000 円
作業療養関連用語解説集 改訂第2版 2011	用語解説集	1,000 円
認知症高齢者に対する作業療法の手引き (改訂版)	認知症手引き	1,000 円
作業療養白書 2015	白書 2015	2,000 円
日本作業療法士協会五十年史	五十年史	3,000 円

作業療法マニュアルシリーズ

資料名	略称	価 格	資料名	略称	価 格
31：精神障害：身体に働きかける作業療法	マ 31 精神・身体	各 1,000 円	50：入所型作業療法	マ 50 入所型	各 1,000 円
33：ハンドセラピー	マ 33 ハンド		51：精神科訪問型作業療法	マ 51 精神訪問	
34：作業療法研究法第2版	マ 34 研究法		52：アルコール依存症者のための作業療法	マ 52 アルコール依存	
35：ヘルスプロモーション	マ 35 ヘルスプロモ		53：認知機能障害に対する自動車運転支援	マ 53 自動車運転	
36：脳血管障害に対する治療の実践	マ 36 脳血管		54：うつ病患者に対する作業療法	マ 54 うつ病	
37：生活を支える作業療法のマネジメント 精神障害分野	マ 37 マネジメント		56：子どもに対する作業療法	マ 56 子ども	
40：特別支援教育の作業療法士	マ 40 特別支援		57：生活行為向上マネジメント第2版	マ 57 生活行為	
41：精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム	マ 41 退院促進		58：高次脳機能障害のある人の生活－就労支援－	マ 58 高次生活・就労	
42：訪問型作業療法	マ 42 訪問		59：認知症初期集中支援－作業療法士の役割と視点－	マ 59 認知初期	
43：脳卒中急性期の作業療法	マ 43 脳急性期		60：知的障害や発達障害のある人への就労支援	マ 60 知的・発達・就労	
45：呼吸器疾患の作業療法①	マ 45 呼吸器①		61：大腿骨頸部／転子部骨折の作業療法 第2版	マ 61 大腿骨第2版	
46：呼吸器疾患の作業療法②	マ 46 呼吸器②				
49：通所型作業療法	マ 49 通所				

申し込み方法

お問い合わせは協会事務局までお願いします。

申し込みは、協会ホームページもしくは機関誌に掲載されている **FAX 注文用紙**、または**ハガキ**にてお申し込みください。

注文の際の資料名は、略称でかまいません (上の表をご参照ください)。有料配布物は送料込みとなっております。無料配布パンフレットは、送料のみ負担となります。

有料配布物の場合は請求書・郵便振込通知票が同封されてきます。なるべく早くお近くの郵便局から振り込んでください。

不良品以外の返品は受け付けておりません。

倫理的文化を育む

日本作業療法士連盟 会長 杉原 素子



衆議院議員 豊田真由子氏の一連の言動に関わる騒動には驚いた、というより複雑な心境である。日本作業療法士連盟は、これまで氏の政治パーティを積極的に支援し、応援してきた。それは、氏が厚生労働省老健局に在籍していた経歴の持ち主であることや「リハビリテーションを考える議員連盟」の事務局次長の任にあり、私たちの職種への理解者と考えたからである。また、千葉県船橋市出身ではあるが、埼玉県和光市・新座市・志木市・朝霞市の地方選挙区に舞い降り、この選挙区にたまたま私は居住し、最寄りの駅前で氏がピラ配りしている際に、何回か挨拶を交わし、地元の支援者の集まりにも個人的に参加してきた関係でもあった。氏のこのたびの言動と、ピンクのスーツを着て女性色を振りまきながら丁寧な言葉づかいで軽やかに支援者の周りを走り回る氏の姿との落差の大きさに驚く。また、相手を見下げる言葉の数々が氏の頭の中に一杯詰め込まれていたことにも失望する。氏の学歴・職歴は実に輝かしい。しかし、今回の出来事は、氏の知・情・意のバランスを40数年のこれまでの生活期間に整えることができなかったということなのだろう。私は、日本作業療法士連盟会長として、氏を私たちの理解者と考え、氏の政治パーティに複数回出席してきた。現時点で、連盟の公のお金を氏の政治活動のために供与したことを悔やむ。連盟会員の皆さんに、私の理解者選びの判断の誤りを深くお詫びする。

私は立場上、リハビリテーション専門職に「職業

倫理」の話をすることがたびたびある。ヘルスプロフェッションと呼ばれる私たちの職種は、職能団体として倫理綱領、倫理指針なるものを有する。そこには、謙虚であることを基盤として、慎重かつ常に自分の利益より、他人・集団・組織・社会の利益を優先させる意志を持つこと、つまり「公の精神」と、利害関係・感情・立場の相克の中で適正な判断をすること、つまり「公正さ」が掲げられており、「公の立場」で働く者の最低限の約束を守ることが定められている。今回の出来事を反面教師として、国の資格の下に働く私たちは、「公の精神」と「公正さ」を肝に銘じ、私たち専門職集団に「倫理の文化」を育てていきたい。

さて、政治家が政治資金を集めるために開催する政治パーティは講演付きと講演が付かないタイプがある。講演が付かないタイプは、派閥の重鎮や議員たちが代わる代わる壇上に登り、パーティ主催者の業績等を褒め上げる挨拶が繰り返されるものである。一方で講演付きのパーティは自身が講演する場合もあるが、大抵の場合はテーマに関する専門家を呼び、弁当付きで話を聴かせてくれるものである。私のこれまでの経験では、専門家の話を聴く後者の方が、質問が許される場合もあり、学べるという印象がある。政治パーティは全て後者のようにしてほしいとずっと思っている。因みに豊田真由子氏の政治パーティは、代わる代わる議員たちがお互いに褒め合う挨拶会のタイプであった。

新職員を紹介します

国際部担当事務員として6月に入職した江口昇さんをご紹介します。岩手出身で、神奈川県にある大学で法律・経済を専攻。大学卒業後は東京にある工業材料メーカーに勤務していた江口さんが、初めて本格的なビジネス英語を学習したのは、国内外の営業部署に配属された30歳代半ばの頃。米国で語学研修とインターンを経験した後、北米・中国担当として1～2ヵ月に1回はいずれかの国へ出張し、2週間ほどの滞在でいくつもの企業を回り営業活動を行うなど、グローバルな活躍をしていました。

東日本大震災をきっかけとして、“ものづくりから、人をつなぐ仕事を”と出身地である東北に戻ったところから、英語力を活かしたキャリアに向け本格的な英語学習に打ち込みます。海外と日本、そして東北地方をつなぐ仕事に就きたいという意欲を持ち仙台市にある専門学校、そして翻訳スクールに通いながら、医療英語の学習、イベントでの通訳、英語担当者として学会等の受付など、実地での経験を重ねました。そして仙台市のある財団の事務所へ入職し、国際交流や国際協力に携わります。具体的には、海外から日本へ来た人に対し、ツアーやホームステイの斡旋、学校交流のコーディネート、文化・農業体験、被災地支援などの血の通った交流を通し対日理解を深めてもらうための業務に従事しました。

そんな多彩な経歴を持つ江口さんは、このたび協会に入職し、国際部の担当として、海外からのメール問い合わせ対応や、東アジア諸国との交流会や全国学会での国際シンポジウム開催に関する調整、台湾との学術交流、英語版ホームページの整備などを担っていただくことになりました。国外へ日本の作業療法の情報を発信することで作業療法を通じた国際協力の発展へ貢献し、同時に諸外国との協働を日本の作業療法士へ還元できれば、と抱負を語ってくださいました。



えぐち のぼる
江口 昇さん

職員募集

募集人員：パート若干名

業務内容：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士学校養成施設評価 事務補助

勤務時間：原則週5日勤務 10:00～17:00（休日 毎週土・日）

勤務場所：①リハビリテーション教育評価機構事務局（港区南青山1-24-1 アミティ乃木坂 内）
②日本作業療法士協会事務局（東京都台東区寿1-5-9 盛光伸光ビル7階）
③日本理学療法士協会事務局（渋谷区千駄ヶ谷3-8-5）

待遇：時間給 1,400円～ 通勤手当 実費支給 年次有給休暇
健康保険・厚生年金保険・労災保険・雇用保険

応募方法：電話でお問い合わせください。
業務内容や就業形態などご説明いたします。

一般社団法人

リハビリテーション教育評価機構 事務局

〒107-0062 東京都港区南青山1-24-1
アミティ乃木坂B1F
TEL. **03-3475-5062** FAX. 03-3475-6637
担当：陣内 <http://jcore.or.jp/>



協会活動資料には国家試験の検討結果・28年度介護保険モニター調査報告を掲載。そして会員へのお知らせが3本、そして連載記事が6本と、充実した誌面となりました。特に2017年度入会者に向けたお願い（表紙裏）・作業療法部門の責任者に向けた重要なお知らせ（p.4）は、ご自身が該当しない場合でも、該当者が周囲にいれば情報共有していただきたい重要な内容となっていますので必ずお目通しください。また、平成29・30年度役員紹介では25名の役員が活動の抱負を述べています。短い文章ではありますが、役員の姿、協会の課題等を垣間見ることのできる記事です。ぜひご一読ください。

さて、この後記を記している今は8月、夏真っ盛りではありますが、第51回日本作業療法学会や全国研修会、国際福祉機器展H.C.R.2017、そして制度対策部が企画運営している意見交換会・情報交換会など、学びの秋にぴったりのイベント情報が盛りだくさんとなっております。学会に関しては、連載「声」において「学会に参加しました」のテーマで経験談を5名の会員からお寄せいただき、ミニ特集ながらとなりました。執筆者の一人が書かれているように、人の価値観や置かれている状況は十人十色。そのなかで学会参加を考えていたり、不安のある会員にとってヒントや励みになれば幸いです。

（編集スタッフ M）

本誌に関するご意見、お問合せがございましたら下記までご連絡ください。

E-mail kikanshi@jaot.or.jp

■平成28年度の確定組織率

66.3%（会員数 53,045 名／有資格者数 79,959 名^{*}）

平成29年度は会員数がまだ確定していないため組織率の算定ができません。当協会の最新の組織率としては、理事会の承認を得て確定した平成28年度の会員数に基づくこの数値をご利用ください。

■平成29年7月1日現在の作業療法士

有資格者数 84,947 名^{*}

会員数 56,198 名

社員数 210 名

認定作業療法士数 891 名

専門作業療法士数（延べ人数） 96 名

■平成29年度の養成校数等

養成校数 189 校（202 課程）

入学定員 7,598 名

^{*}有資格者数の数値は、過去の国家試験合格者数を単純に累計した数から、本会が把握し得た限りでの死亡退会者数（205 名）を除いた数として示していますが、免許証の未登録、取り消し、本会が把握し得ない死亡その他の理由による消除の結果生じた減数分は算入されていません。

日本作業療法士協会誌 第65号（年12回発行）

2017年8月15日発行

□広報部 機関誌編集委員会

委員長：荻原 喜茂

委員：香山 明美、岡本 宏二、高梨 信之、野崎 智仁、岡村 忠弘、米井 浩太郎、浅倉 恵子

編集スタッフ：松岡 薫、宮井 恵次、大胡 陽子、谷津 光宏

表紙デザイン：渡辺美知子デザイン室 / 制作・印刷：株式会社サンワ

発行所 〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル

一般社団法人 日本作業療法士協会（TEL.03-5826-7871 FAX.03-5826-7872）

■協会ホームページアドレス <http://www.jaot.or.jp/>

□求人広告：1/4 頁 1 万 3 千円（賛助会員は割引あり）

第60回

Japanese Association of Occupational Therapists

作業療法全国研修会

地域

につながる
作業療法の

理論

と

実践

滋賀会場

2017年10月7日(土) - 8日(日)

ピアザ淡海 (滋賀県大津市におの浜1丁目-20)

<事前登録>

登録期間 2017年7月20日(木)正午～
2017年9月15日(金)正午まで

参加登録は、協会ホームページの
全国研修会バナーから!!



協会指定講座1 官公庁講演

「地域につながる作業療法の理論と実践
～地域包括ケアシステム構築に向けた、地域につなげる作業療法士への期待～」
小林 毅 (厚生労働省老健局高齢者支援課)

協会指定講座2 協会長講演

「地域につながる作業療法の理論と実践」
中村 春基 (日本作業療法士協会 会長)

協会指定講座3 公開講座：模擬地域ケア会議

「地域ケア会議における作業療法士の役割」
佐藤 孝臣 (株式会社ライフリー)

公開講座：鹿児島県作業療法士会の取り組み

「児童発達支援における作業療法士の視点、地域と繋がる役割
～アイディア集作成とその活用を通して～」
井上 和博 (鹿児島大学)

琵琶湖の朝焼け

主催:  一般社団法人日本作業療法士協会 運営協力: 一般社団法人滋賀県作業療法士会

お問い合わせ 東武トップツアーズ(株) 東京法人東事業部内 作業療法全国研修会運営事務局宛
TEL: 03-6667-0592 FAX: 03-6667-0564 Mail: jaot_tobu@tobutours.co.jp

